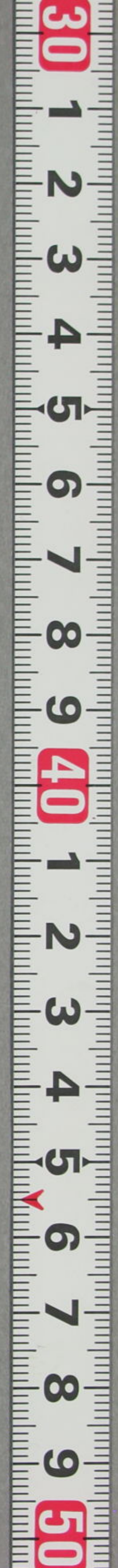


黄金水大盡益  
上卷

~13  
3910  
1



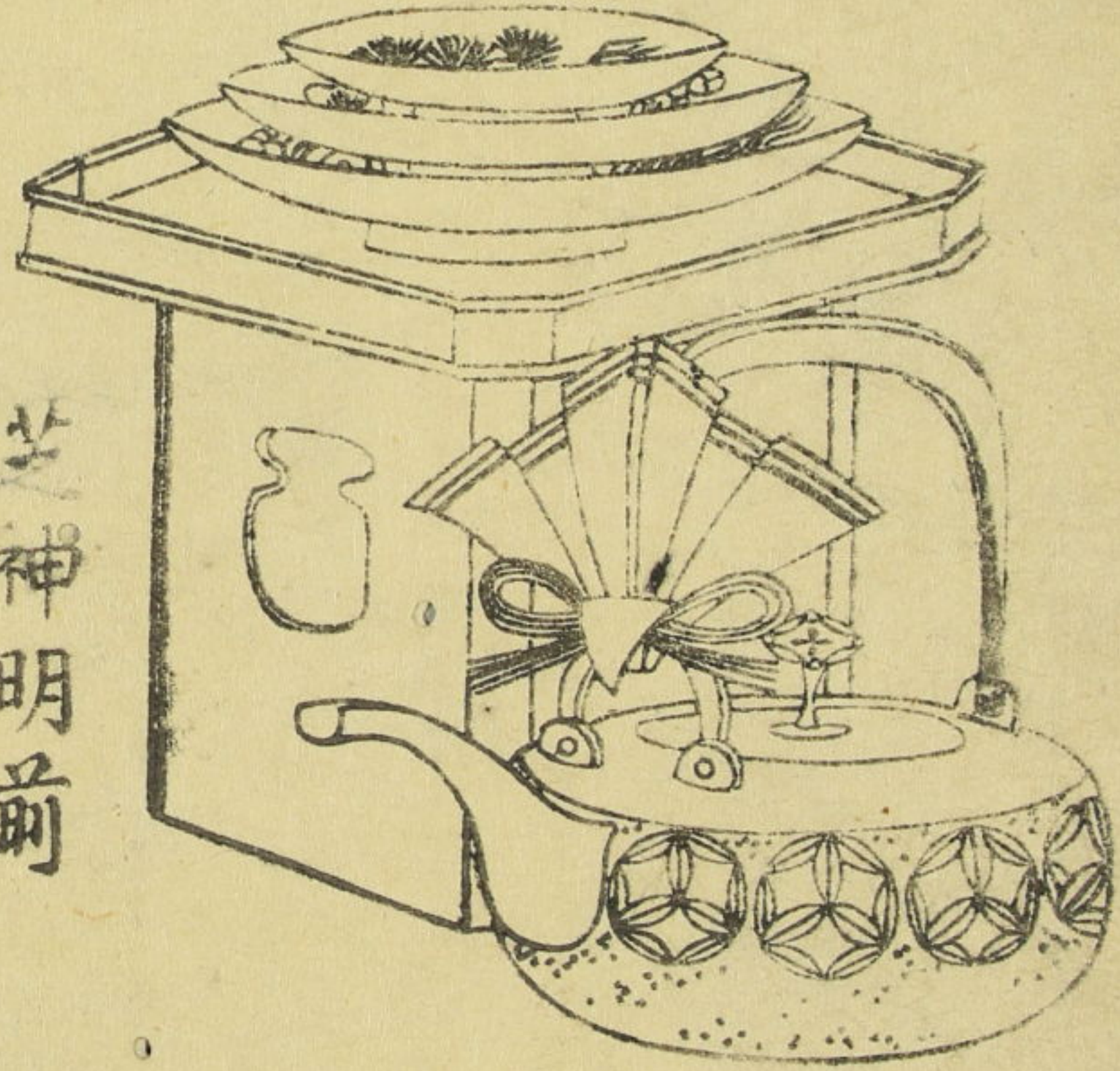
門 13  
號 3910  
卷 1

# 黄金水

## 大盡盃

### 上冊

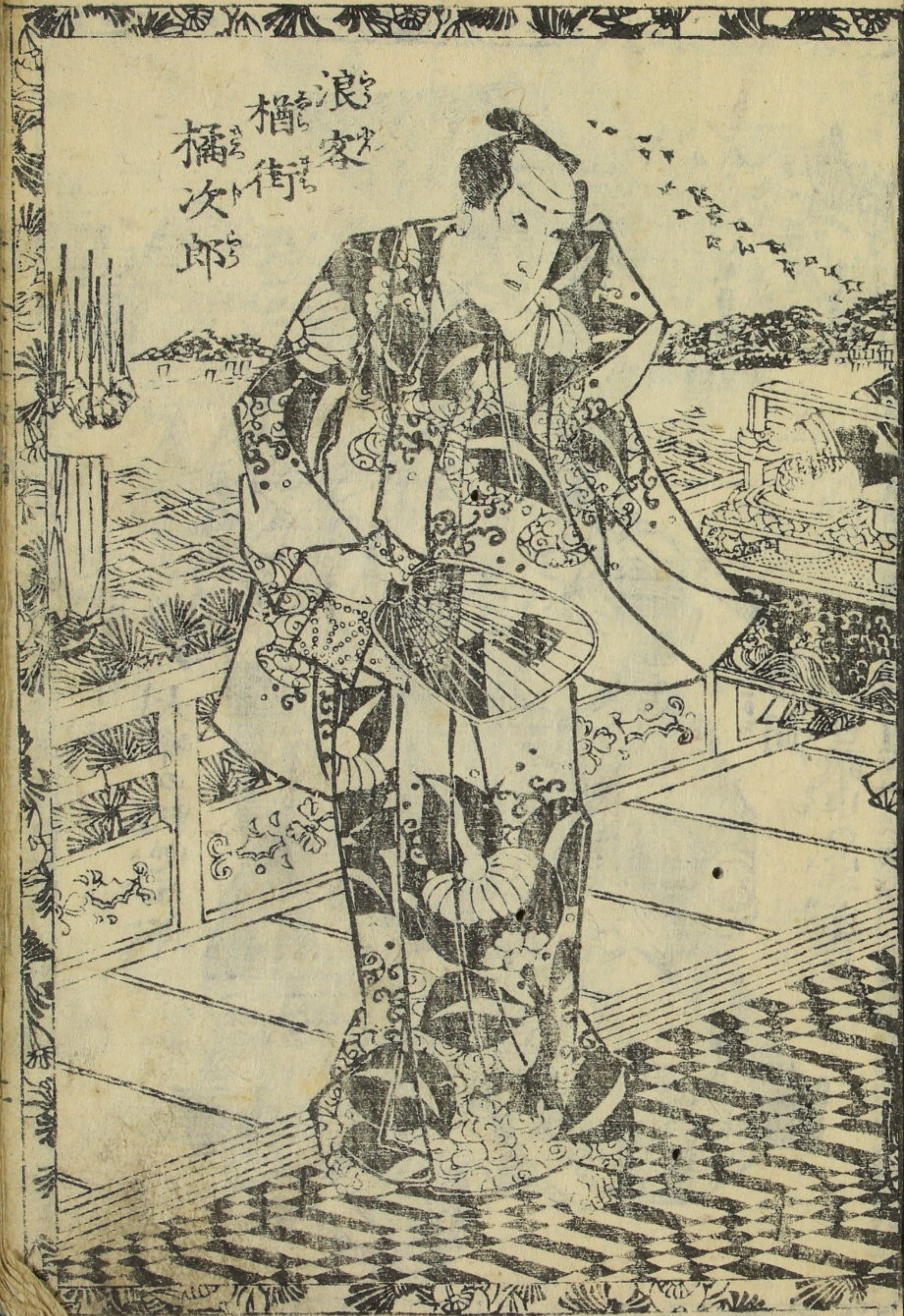
為永春水作  
一雄齋國輝画



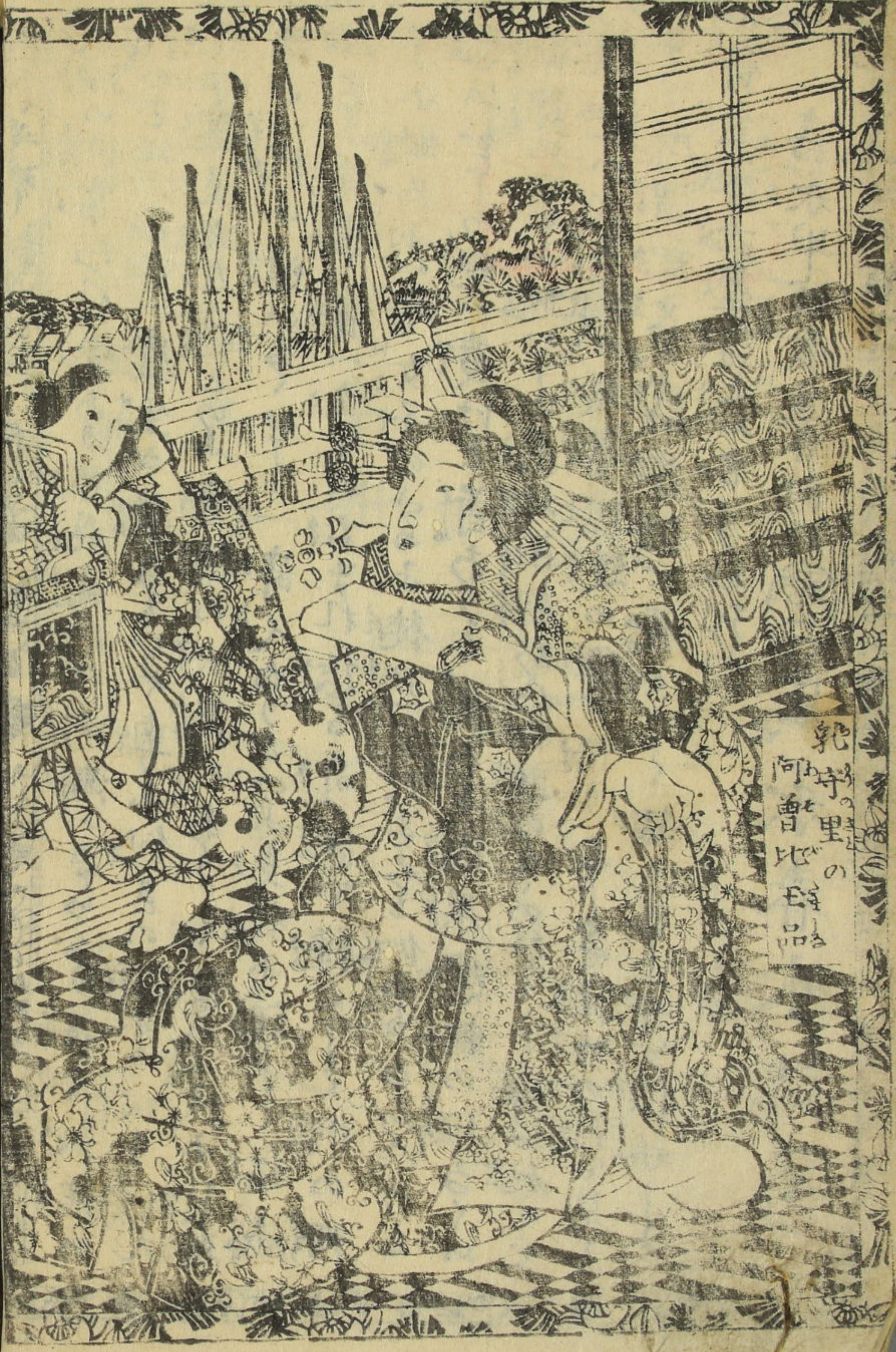
神明前  
泉市板

天地の間常られぬ愛あり那飛鳥川の洲瀬いさらなり長安飯店の  
 枕のどにさむれは盧生が夢なるや専ふ何世の頃ふり  
 紀伊國屋文左工門との有徳の大商人ありぞ這一代小貨殖  
 まご一代小遣ひをせし一奇人なりとの小吏物小記しと例の冊  
 知まり其事實に左まれ右まれ然とたまたまの如くゆるらんと  
 子小做ん虫婦女子のさふ徒然とたまたまの如くゆるらんと  
 念ひをすの現は幾けと音ありと尾ある因果應報の理を  
 勸懲の意を述べと南北兩朝おん和睦のそのひより緯と起して  
 後遂ふ文左門が無常迅速の理と悟りた下を法性の月と見る  
 すで所謂文左盛衰記と長々綴りて開と標題しと

嘉永甲寅歲孟春新局(三)為永春水誌也



浪客  
櫛街  
橘次郎



乾  
阿曾里の  
比の  
品



盗賊の首領  
大峰の釈迦五郎

帯間  
浮世頭巾の宇喜七



肥州加田の船持  
名草淡四郎の子  
外酒屋の  
小七

名草文七  
後小  
紀伊屋文左門

箱





此の女は  
 花菱の  
 着物に  
 坐す  
 其の  
 傍に  
 火鉢  
 あり  
 其の  
 前  
 には  
 茶  
 碗  
 あり  
 其の  
 左  
 には  
 小  
 僧  
 あり

此の  
 物は  
 花菱  
 の  
 着物  
 也

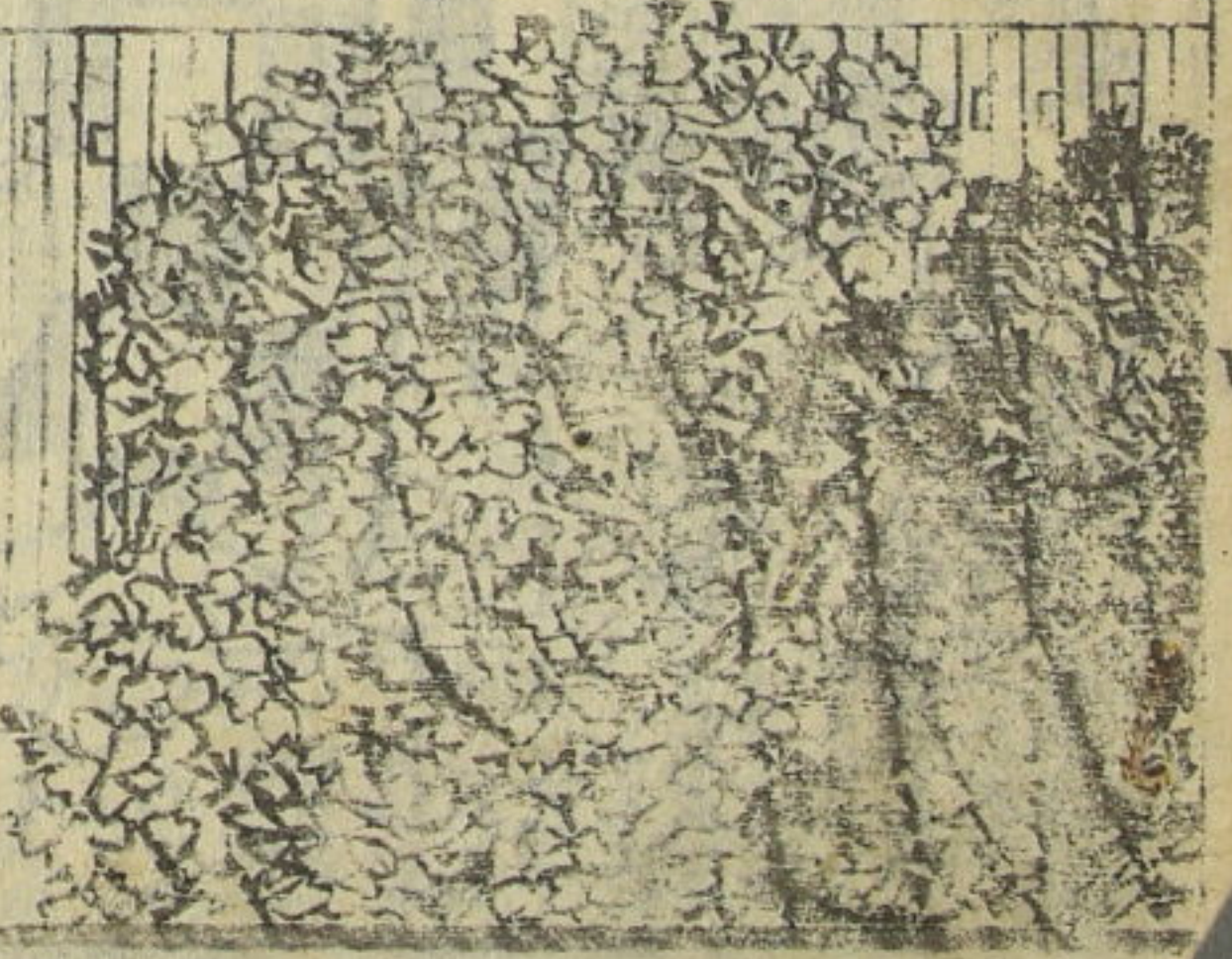
此の女は  
 花菱の  
 着物に  
 坐す  
 其の  
 傍に  
 火鉢  
 あり  
 其の  
 前  
 には  
 茶  
 碗  
 あり  
 其の  
 左  
 には  
 小  
 僧  
 あり



此の女は  
 花菱の  
 着物に  
 坐す  
 其の  
 傍に  
 火鉢  
 あり  
 其の  
 前  
 には  
 茶  
 碗  
 あり  
 其の  
 左  
 には  
 小  
 僧  
 あり

此の女は  
 花菱の  
 着物に  
 坐す  
 其の  
 傍に  
 火鉢  
 あり  
 其の  
 前  
 には  
 茶  
 碗  
 あり  
 其の  
 左  
 には  
 小  
 僧  
 あり

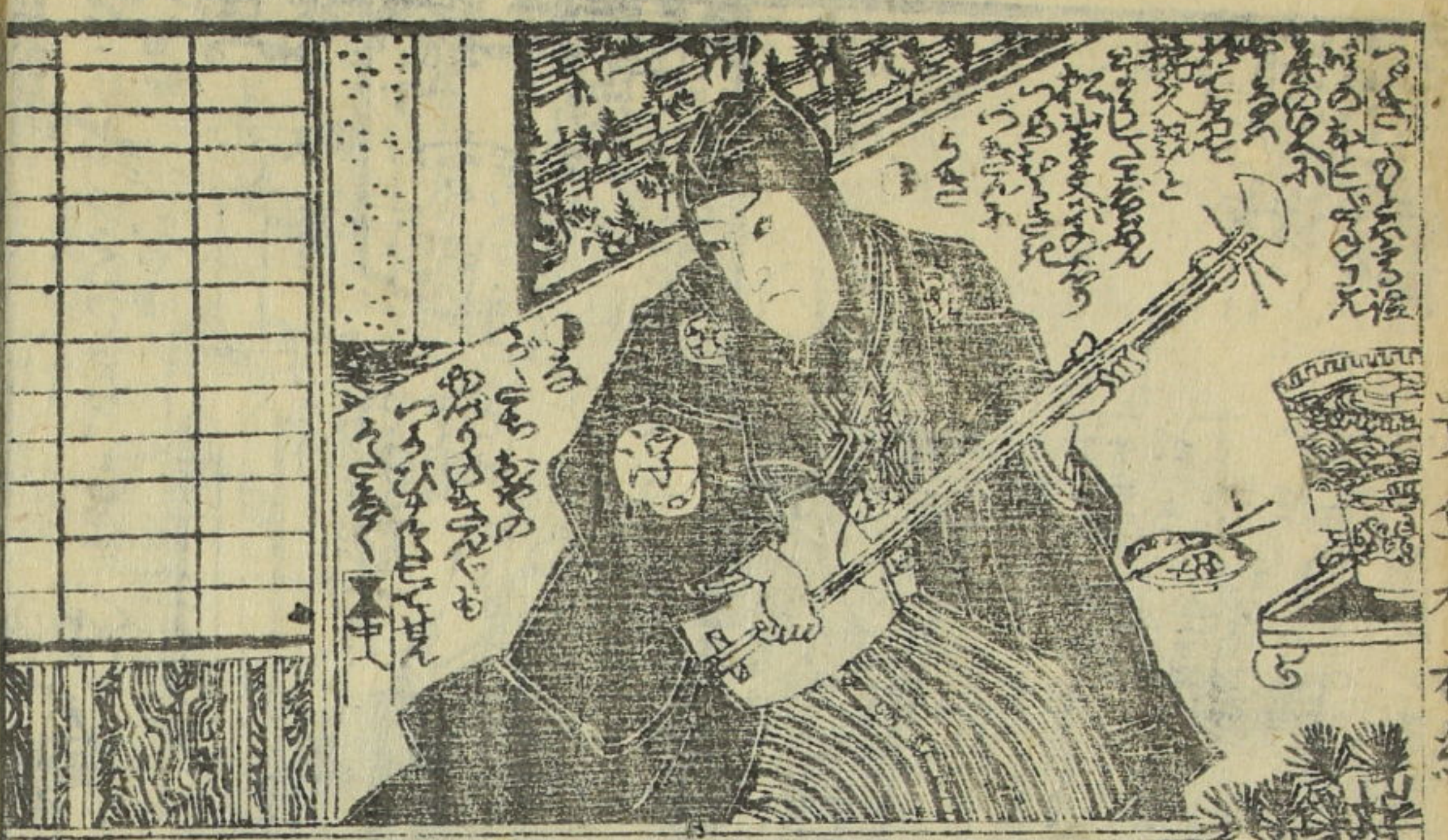
此の  
 物は  
 花菱  
 の  
 着物  
 也



五  
 六  
 七  
 八  
 九  
 十  
 十一  
 十二  
 十三  
 十四  
 十五  
 十六  
 十七  
 十八  
 十九  
 二十  
 二十一  
 二十二  
 二十三  
 二十四  
 二十五  
 二十六  
 二十七  
 二十八  
 二十九  
 三十  
 三十一  
 三十二  
 三十三  
 三十四  
 三十五  
 三十六  
 三十七  
 三十八  
 三十九  
 四十  
 四十一  
 四十二  
 四十三  
 四十四  
 四十五  
 四十六  
 四十七  
 四十八  
 四十九  
 五十  
 五十一  
 五十二  
 五十三  
 五十四  
 五十五  
 五十六  
 五十七  
 五十八  
 五十九  
 六十  
 六十一  
 六十二  
 六十三  
 六十四  
 六十五  
 六十六  
 六十七  
 六十八  
 六十九  
 七十  
 七十一  
 七十二  
 七十三  
 七十四  
 七十五  
 七十六  
 七十七  
 七十八  
 七十九  
 八十  
 八十一  
 八十二  
 八十三  
 八十四  
 八十五  
 八十六  
 八十七  
 八十八  
 八十九  
 九十  
 九十一  
 九十二  
 九十三  
 九十四  
 九十五  
 九十六  
 九十七  
 九十八  
 九十九  
 一百



一  
 二  
 三  
 四  
 五  
 六  
 七  
 八  
 九  
 十  
 十一  
 十二  
 十三  
 十四  
 十五  
 十六  
 十七  
 十八  
 十九  
 二十  
 二十一  
 二十二  
 二十三  
 二十四  
 二十五  
 二十六  
 二十七  
 二十八  
 二十九  
 三十  
 三十一  
 三十二  
 三十三  
 三十四  
 三十五  
 三十六  
 三十七  
 三十八  
 三十九  
 四十  
 四十一  
 四十二  
 四十三  
 四十四  
 四十五  
 四十六  
 四十七  
 四十八  
 四十九  
 五十  
 五十一  
 五十二  
 五十三  
 五十四  
 五十五  
 五十六  
 五十七  
 五十八  
 五十九  
 六十  
 六十一  
 六十二  
 六十三  
 六十四  
 六十五  
 六十六  
 六十七  
 六十八  
 六十九  
 七十  
 七十一  
 七十二  
 七十三  
 七十四  
 七十五  
 七十六  
 七十七  
 七十八  
 七十九  
 八十  
 八十一  
 八十二  
 八十三  
 八十四  
 八十五  
 八十六  
 八十七  
 八十八  
 八十九  
 九十  
 九十一  
 九十二  
 九十三  
 九十四  
 九十五  
 九十六  
 九十七  
 九十八  
 九十九  
 一百





山石草木

黄金水初終

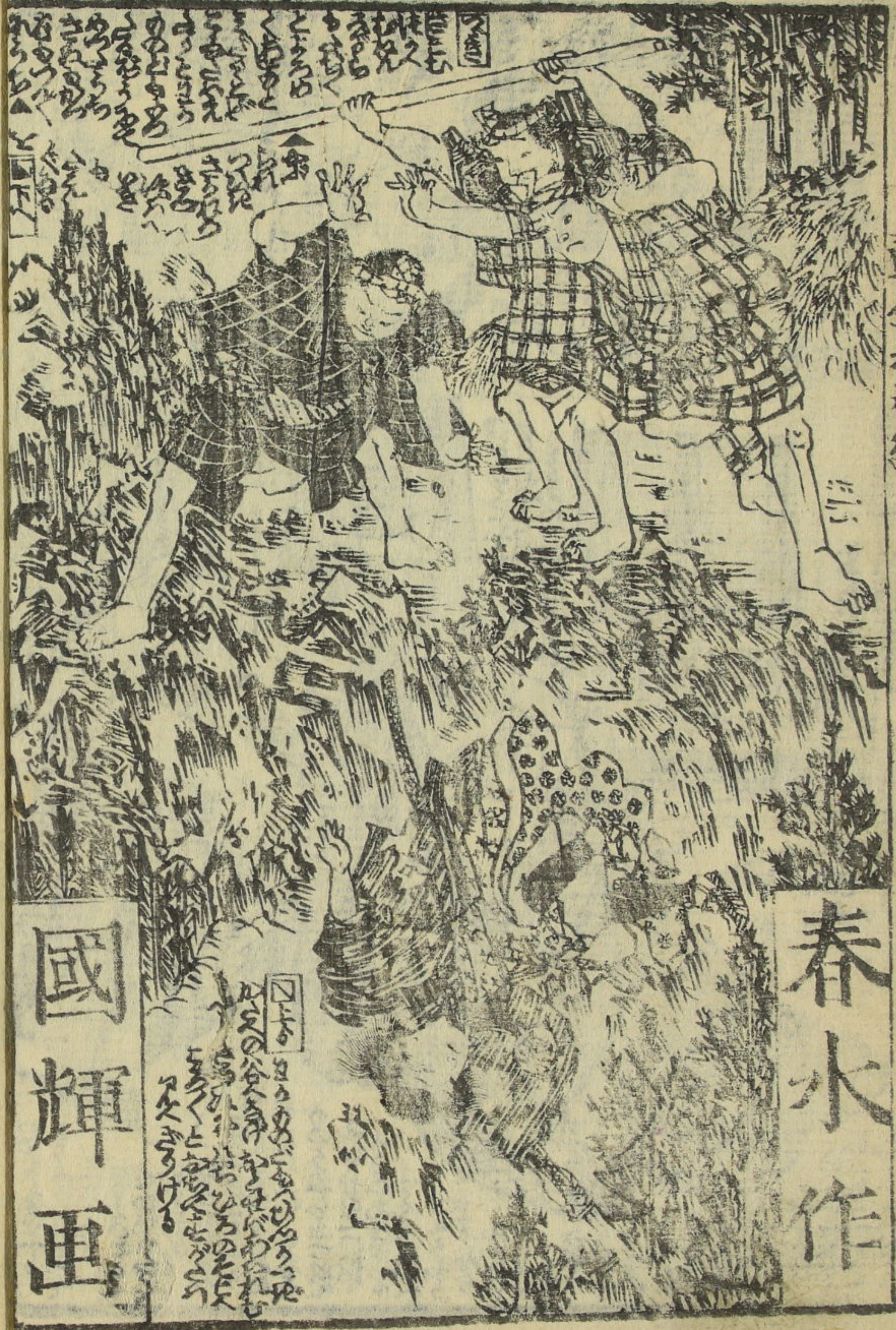


山石草木

黄金水初終







春水作

國輝画

曲亭馬琴作

新編金瓶梅全輯

一編大尾

為永春水作

黃金水大盡盃

同

女郎花五色石臺

十篇大尾

柳亭種彦作

琴聲義人錄

同

小女郎知怨芋環

三篇大尾

笠亭仙果作

根源寶紫

柳下亭種員作

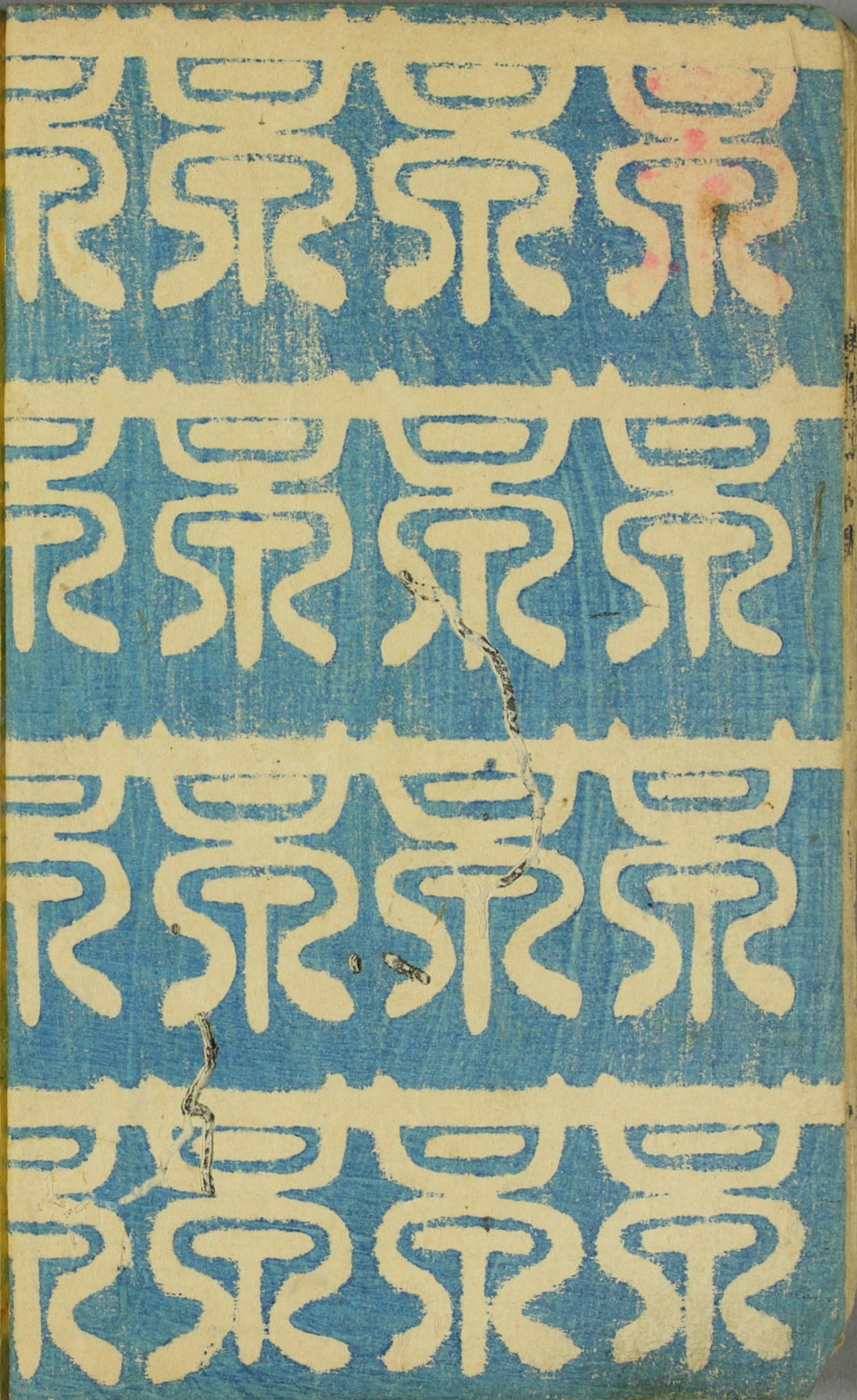
兒雷也豪傑譚

柳煙亭種久作

一休草紙

假名  
反古

黄金水大盡盃下の巻二





黄金水入る魚

下の巻

美水化

一梅齋

輝魚

甘茶



Vertical text on the right edge of the right page, likely a page number or chapter indicator.

十一



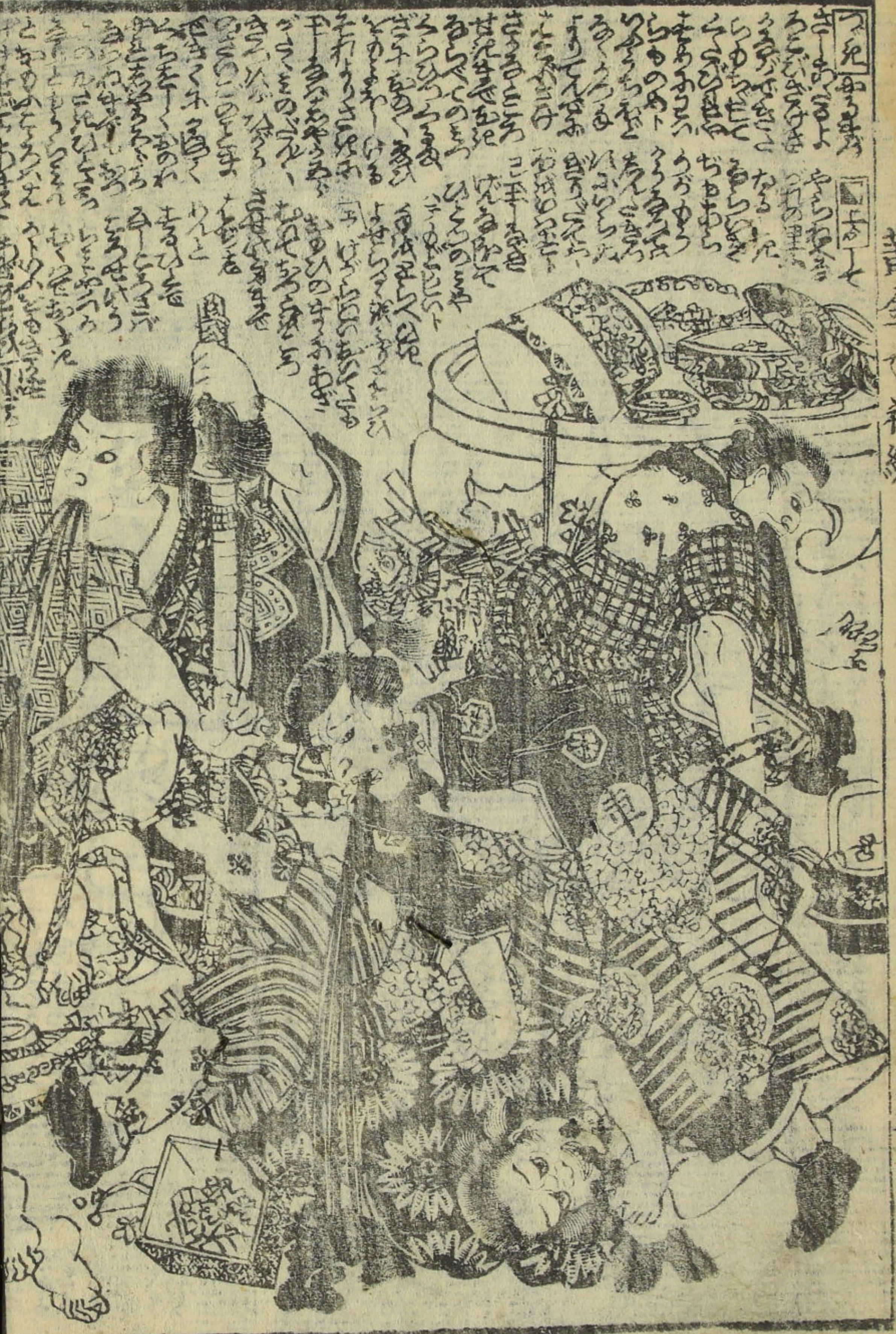
151

151



152

152

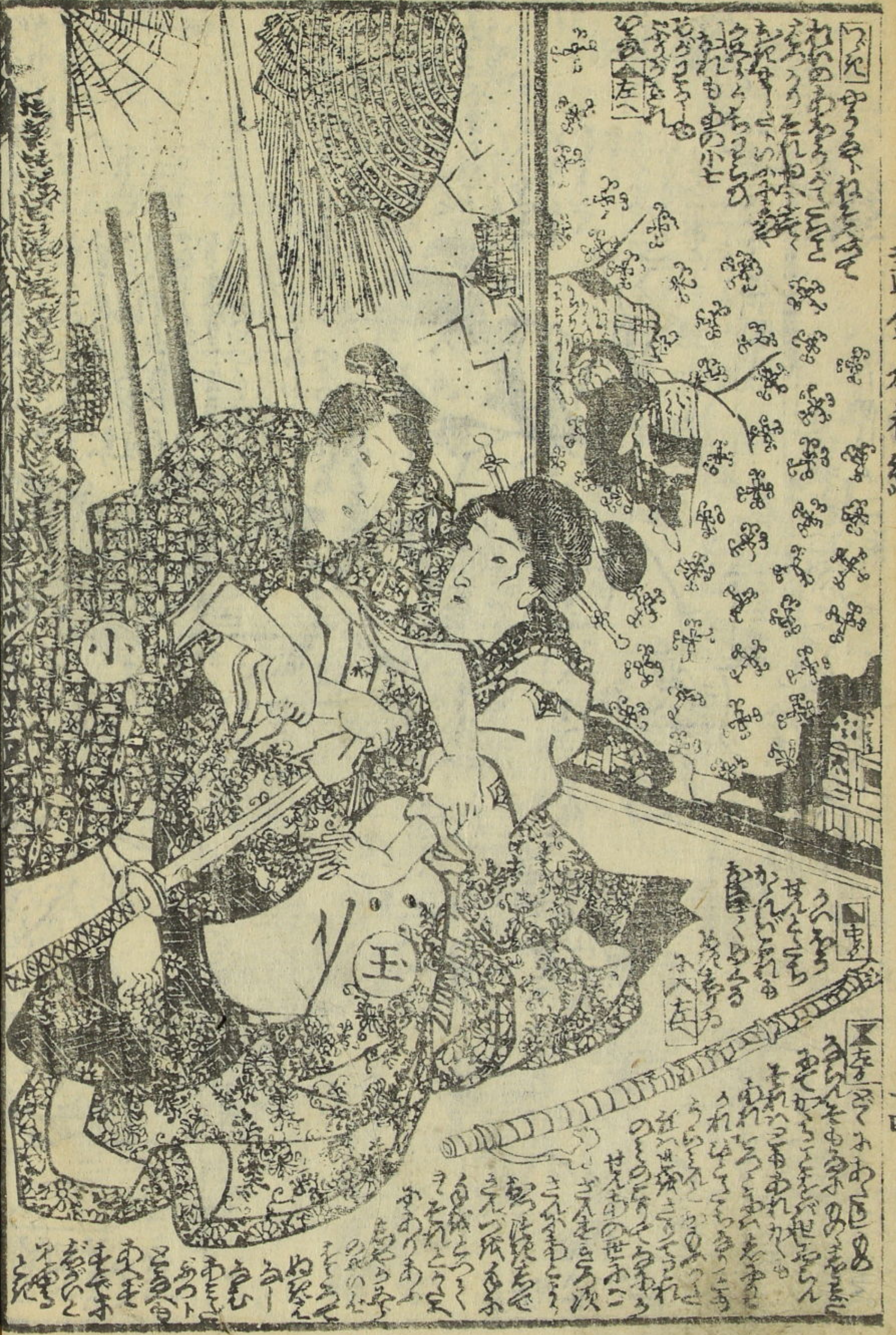
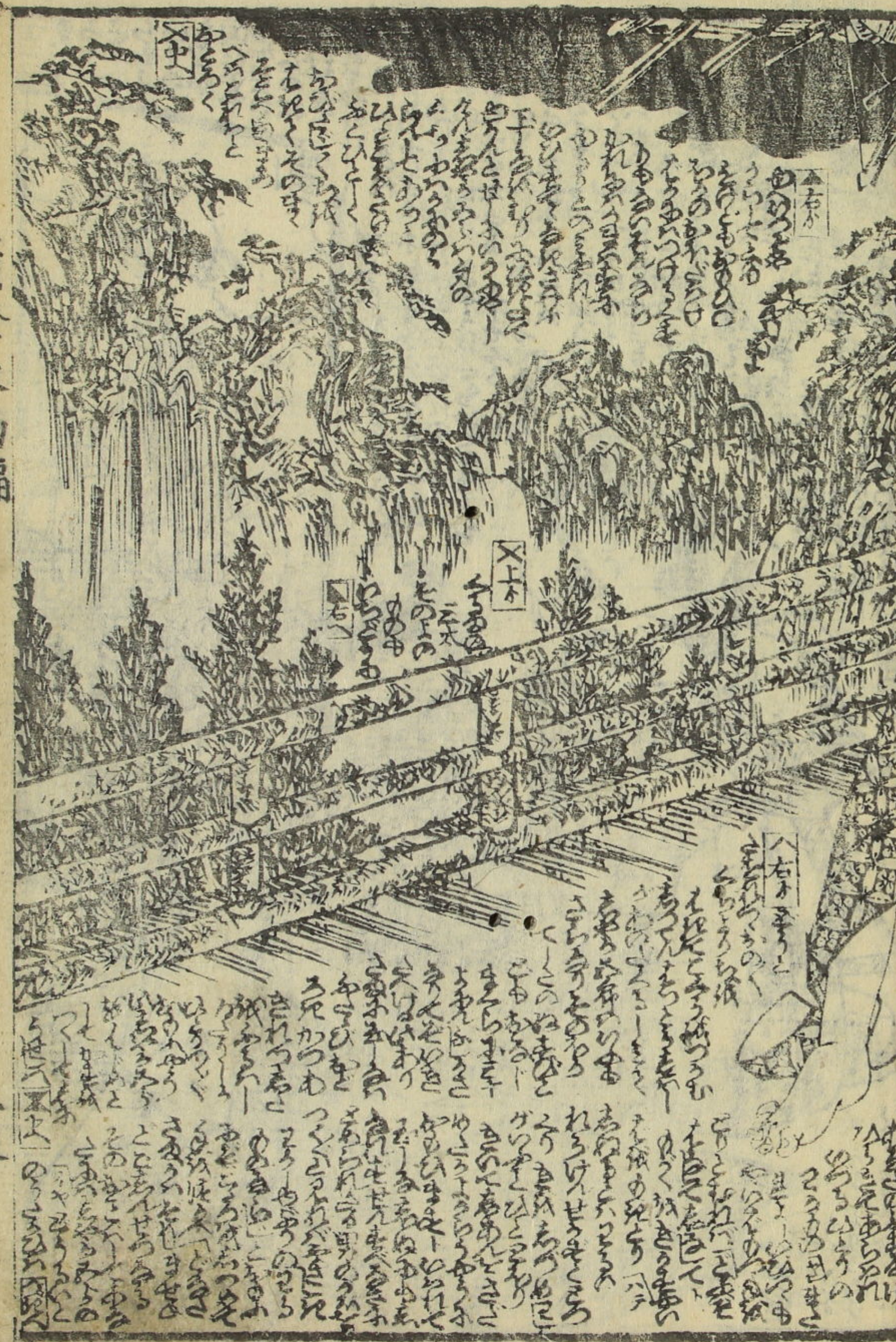


Handwritten text in vertical columns at the top of the right page, likely providing commentary or a list of items related to the illustration below.



Handwritten text in vertical columns at the top of the left page, likely providing commentary or a list of items related to the illustration below.

Handwritten text in vertical columns at the bottom of the left page, likely providing commentary or a list of items related to the illustration above.

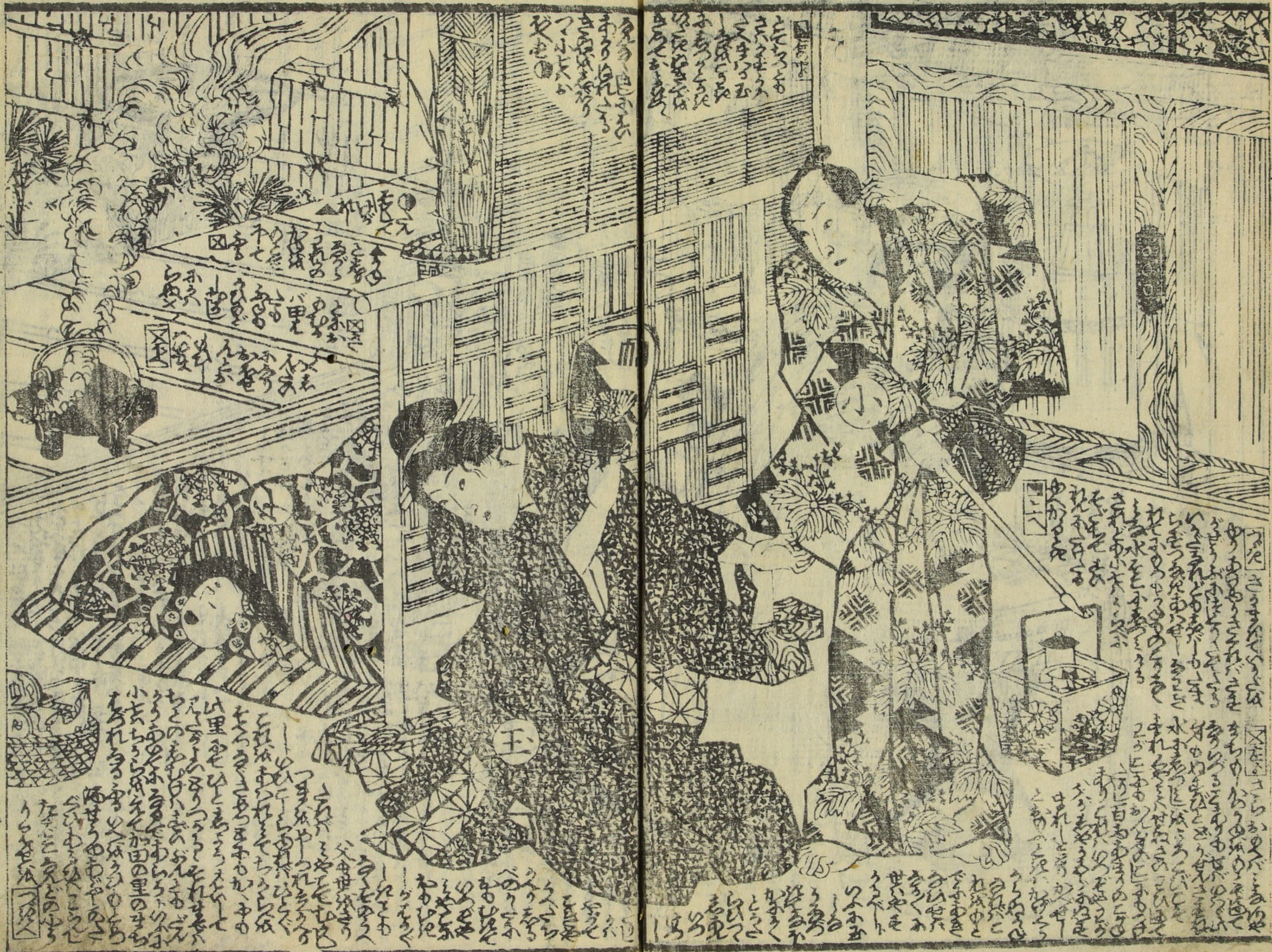






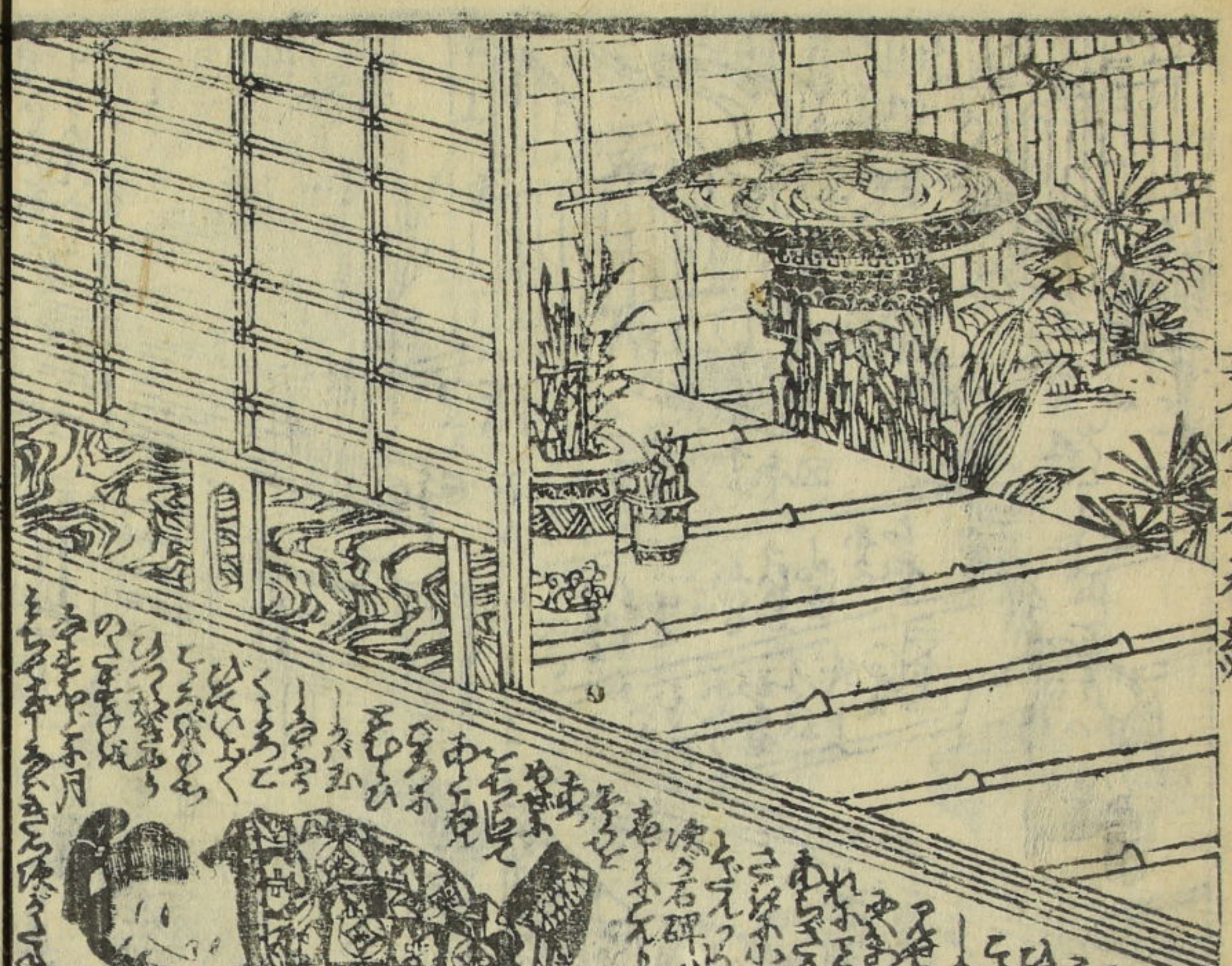




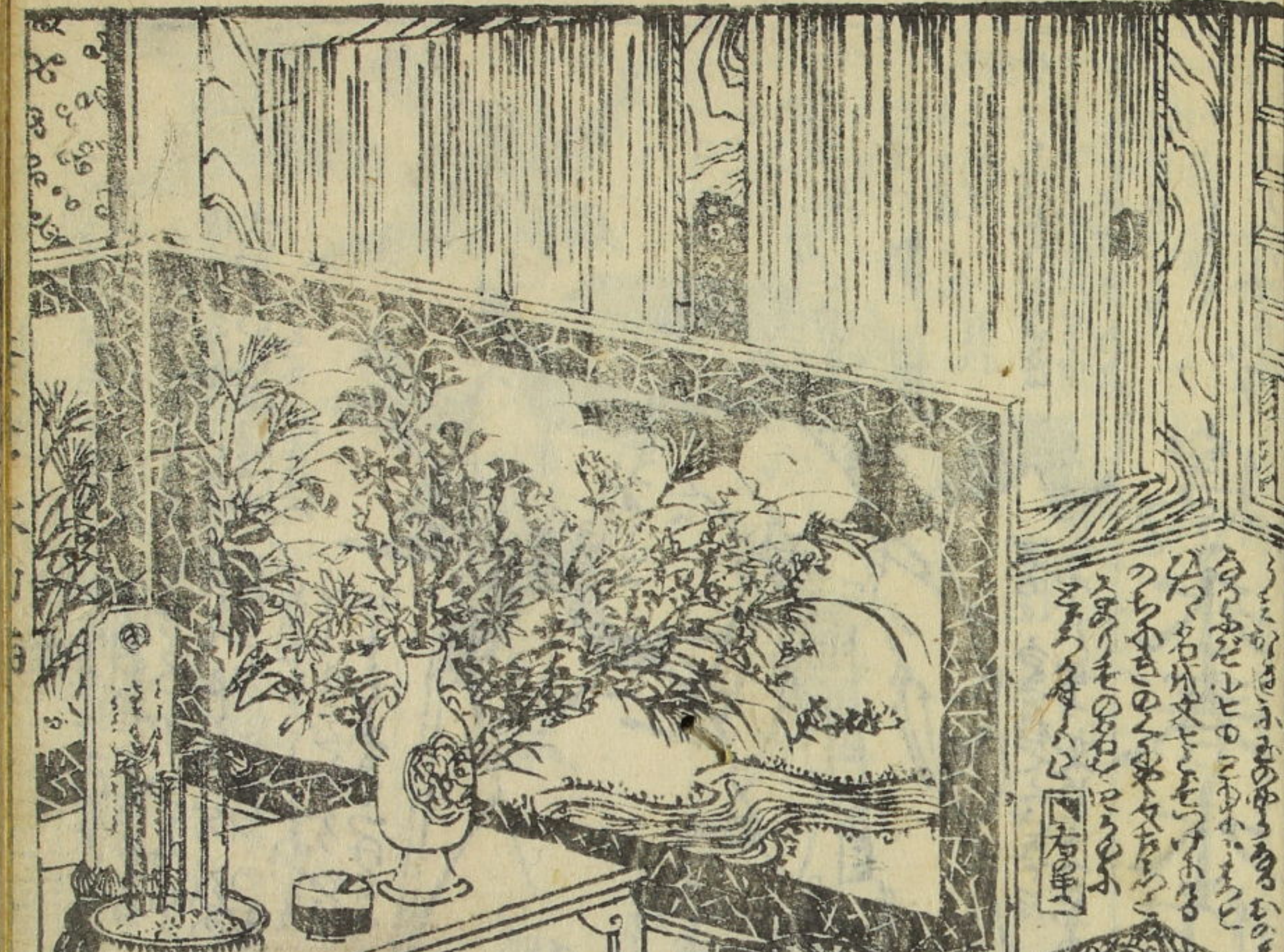


Left side text block containing multiple columns of handwritten Japanese characters.

Right side text block containing multiple columns of handwritten Japanese characters.



右の如く  
一、此の如く  
二、此の如く  
三、此の如く  
四、此の如く  
五、此の如く  
六、此の如く  
七、此の如く  
八、此の如く  
九、此の如く  
十、此の如く  
十一、此の如く  
十二、此の如く  
十三、此の如く  
十四、此の如く  
十五、此の如く  
十六、此の如く  
十七、此の如く  
十八、此の如く  
十九、此の如く  
二十、此の如く  
二十一、此の如く  
二十二、此の如く  
二十三、此の如く  
二十四、此の如く  
二十五、此の如く  
二十六、此の如く  
二十七、此の如く  
二十八、此の如く  
二十九、此の如く  
三十、此の如く  
三十一、此の如く  
三十二、此の如く  
三十三、此の如く  
三十四、此の如く  
三十五、此の如く  
三十六、此の如く  
三十七、此の如く  
三十八、此の如く  
三十九、此の如く  
四十、此の如く  
四十一、此の如く  
四十二、此の如く  
四十三、此の如く  
四十四、此の如く  
四十五、此の如く  
四十六、此の如く  
四十七、此の如く  
四十八、此の如く  
四十九、此の如く  
五十、此の如く  
五十一、此の如く  
五十二、此の如く  
五十三、此の如く  
五十四、此の如く  
五十五、此の如く  
五十六、此の如く  
五十七、此の如く  
五十八、此の如く  
五十九、此の如く  
六十、此の如く  
六十一、此の如く  
六十二、此の如く  
六十三、此の如く  
六十四、此の如く  
六十五、此の如く  
六十六、此の如く  
六十七、此の如く  
六十八、此の如く  
六十九、此の如く  
七十、此の如く  
七十一、此の如く  
七十二、此の如く  
七十三、此の如く  
七十四、此の如く  
七十五、此の如く  
七十六、此の如く  
七十七、此の如く  
七十八、此の如く  
七十九、此の如く  
八十、此の如く  
八十一、此の如く  
八十二、此の如く  
八十三、此の如く  
八十四、此の如く  
八十五、此の如く  
八十六、此の如く  
八十七、此の如く  
八十八、此の如く  
八十九、此の如く  
九十、此の如く  
九十一、此の如く  
九十二、此の如く  
九十三、此の如く  
九十四、此の如く  
九十五、此の如く  
九十六、此の如く  
九十七、此の如く  
九十八、此の如く  
九十九、此の如く  
百、此の如く



左の如く  
一、此の如く  
二、此の如く  
三、此の如く  
四、此の如く  
五、此の如く  
六、此の如く  
七、此の如く  
八、此の如く  
九、此の如く  
十、此の如く  
十一、此の如く  
十二、此の如く  
十三、此の如く  
十四、此の如く  
十五、此の如く  
十六、此の如く  
十七、此の如く  
十八、此の如く  
十九、此の如く  
二十、此の如く  
二十一、此の如く  
二十二、此の如く  
二十三、此の如く  
二十四、此の如く  
二十五、此の如く  
二十六、此の如く  
二十七、此の如く  
二十八、此の如く  
二十九、此の如く  
三十、此の如く  
三十一、此の如く  
三十二、此の如く  
三十三、此の如く  
三十四、此の如く  
三十五、此の如く  
三十六、此の如く  
三十七、此の如く  
三十八、此の如く  
三十九、此の如く  
四十、此の如く  
四十一、此の如く  
四十二、此の如く  
四十三、此の如く  
四十四、此の如く  
四十五、此の如く  
四十六、此の如く  
四十七、此の如く  
四十八、此の如く  
四十九、此の如く  
五十、此の如く  
五十一、此の如く  
五十二、此の如く  
五十三、此の如く  
五十四、此の如く  
五十五、此の如く  
五十六、此の如く  
五十七、此の如く  
五十八、此の如く  
五十九、此の如く  
六十、此の如く  
六十一、此の如く  
六十二、此の如く  
六十三、此の如く  
六十四、此の如く  
六十五、此の如く  
六十六、此の如く  
六十七、此の如く  
六十八、此の如く  
六十九、此の如く  
七十、此の如く  
七十一、此の如く  
七十二、此の如く  
七十三、此の如く  
七十四、此の如く  
七十五、此の如く  
七十六、此の如く  
七十七、此の如く  
七十八、此の如く  
七十九、此の如く  
八十、此の如く  
八十一、此の如く  
八十二、此の如く  
八十三、此の如く  
八十四、此の如く  
八十五、此の如く  
八十六、此の如く  
八十七、此の如く  
八十八、此の如く  
八十九、此の如く  
九十、此の如く  
九十一、此の如く  
九十二、此の如く  
九十三、此の如く  
九十四、此の如く  
九十五、此の如く  
九十六、此の如く  
九十七、此の如く  
九十八、此の如く  
九十九、此の如く  
百、此の如く



鳥永春水作 一雄齋國輝画

十返舎 一九作  
滑稽首道中膝栗毛

柳亭種清作

不思議塚小説櫻

柳亭種清作  
豊時田村漣新雁

柳亭種清作

同  
狂田姉妹新白石

同  
風俗浅間ヶ嶽

関太郎鈴ヶ譚

五篇大尾

出版人 京橋区銀座四丁目三番地  
山中喜太郎

黄金水大盡盃上の卷三

黄金

水

大

盡

盃

上

の

卷

三

泉

泉

泉

泉

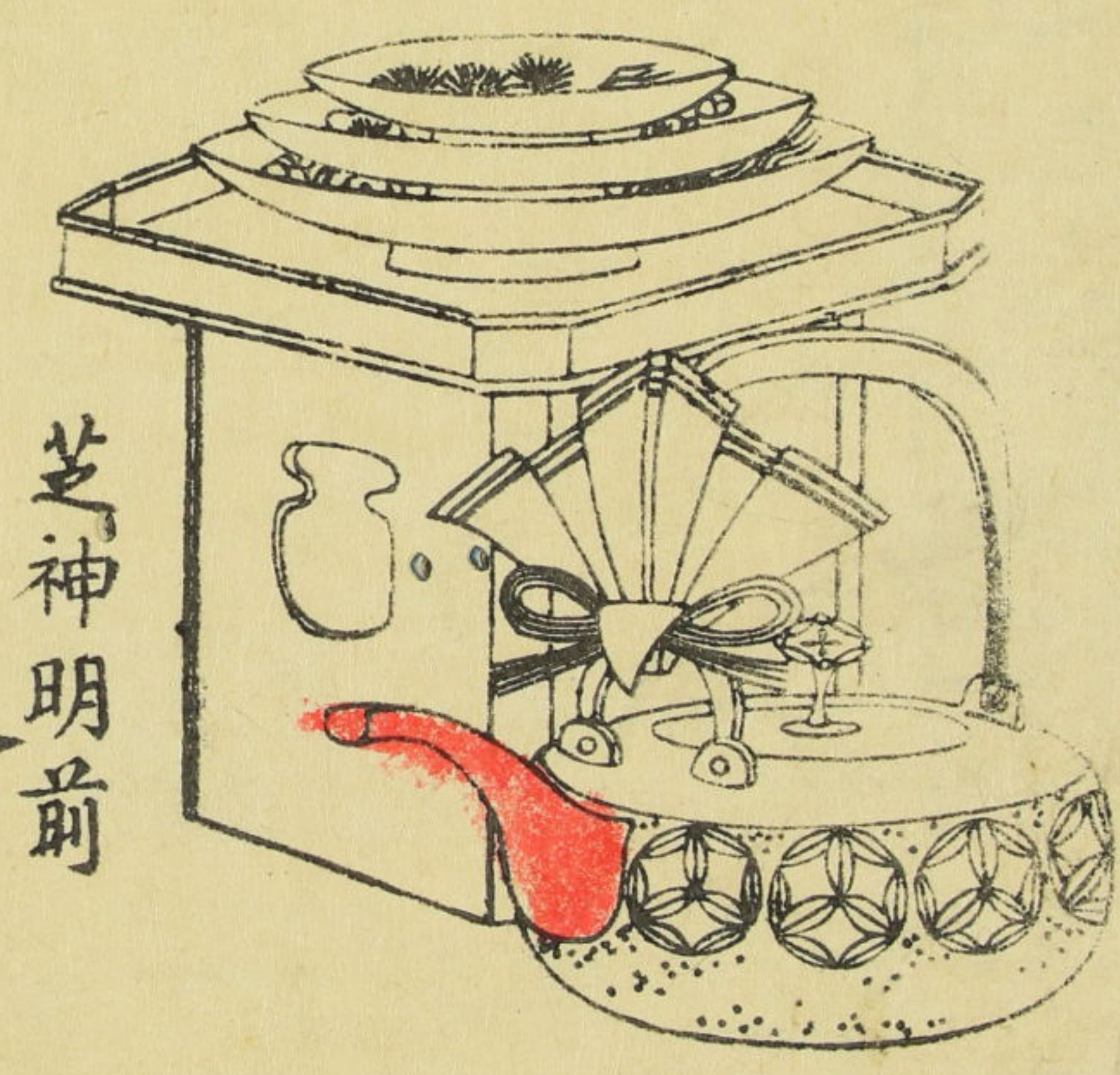


黄金水

大盡盃

上冊

為永春水作  
一雄齋國輝画



芝神明前  
泉市板

器物の数々あるも雷盆をハ飯も焚き上瓶も水筒の措られぬとく。あ  
 のゆゑの如く必用と供のあり然るに僕がけ作者顔ある  
 和漢の書籍を積貯ふは腹小器も何れも所謂圓器方底  
 めく聞ふ支又尻より漏る紙尚もあつて案を疑らせを灰吹で  
 火を吹く如く自己たるが心を勞し先へ通れぬ支のそまろり  
 小書房の需小心しく嚮ふ終て大盡盃這ハ岷江の夫をねど  
 最さるある硯の水小聊思致浮め小猶統編をととむるま  
 とも茶釜と煤と蛸小似くも中足も出まきと支を左やら  
 右やらとらけける夫等の支成序不記して措子木のと死筆とたぬ

嘉永七稔寅孟春

十 為永春水誌也

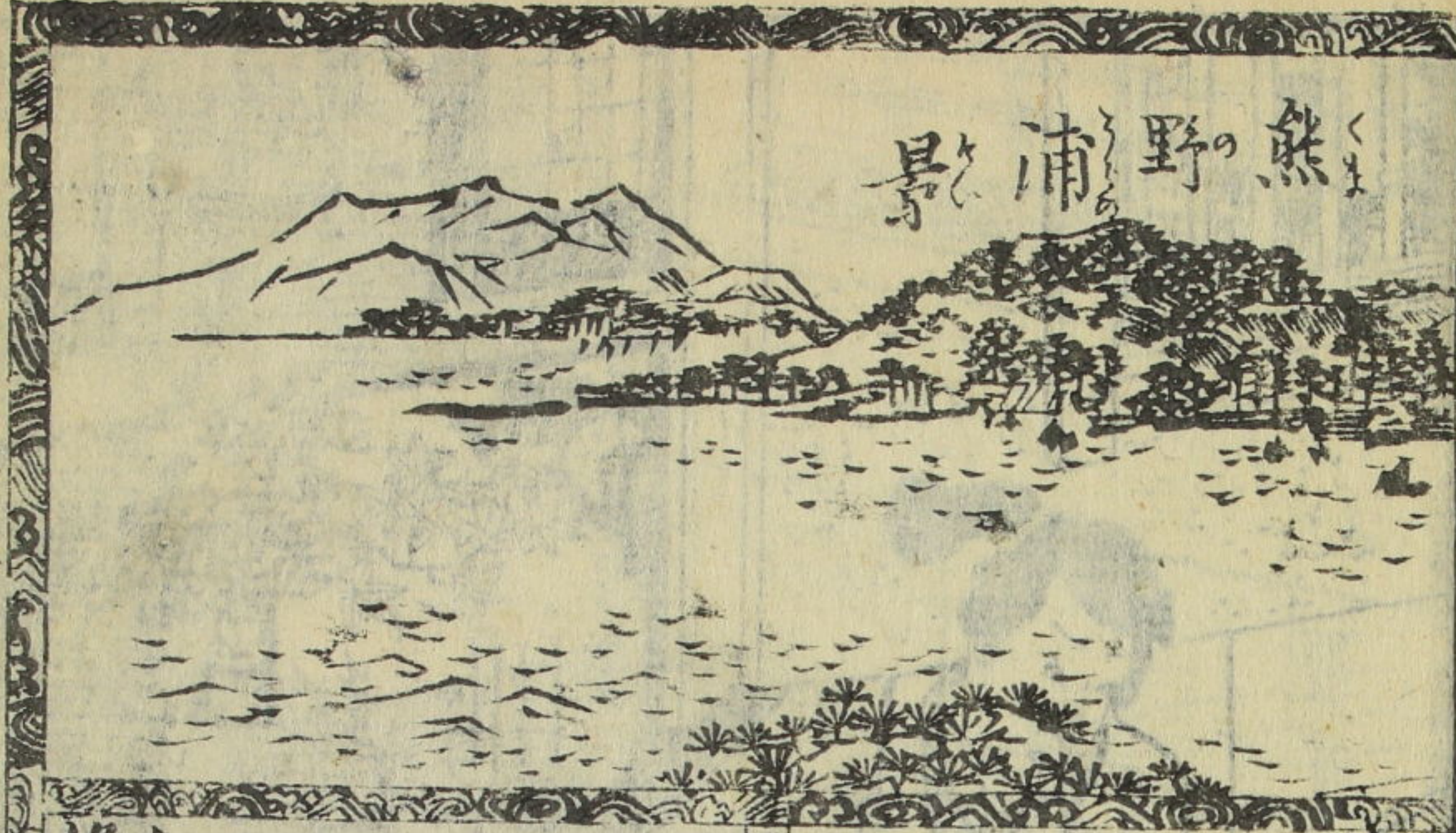




再出  
名草文七



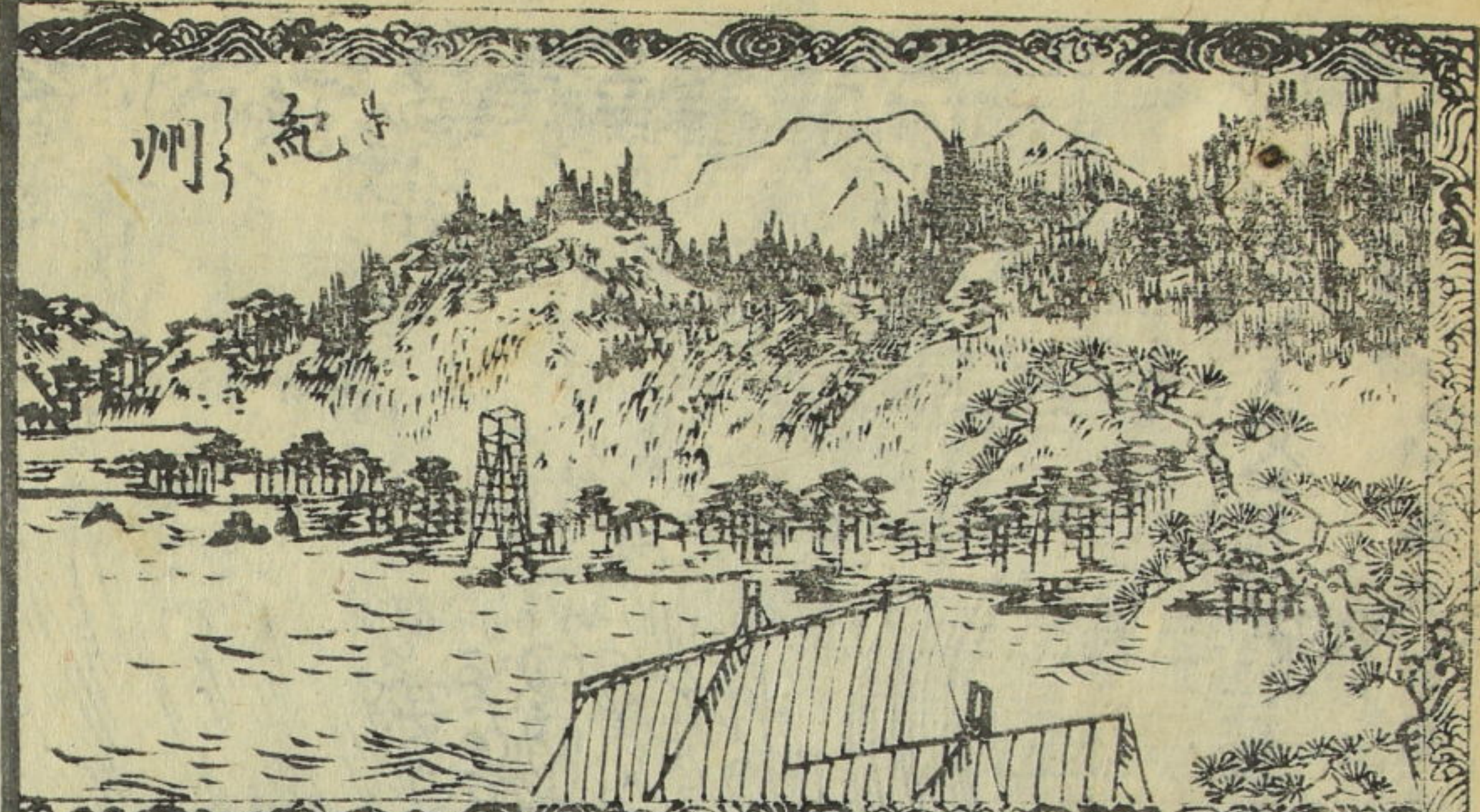
影浦野熊



修行者无名氏

波永齋  
実の楠  
家の臣  
布志任  
允が子  
幻名相詩

州紀

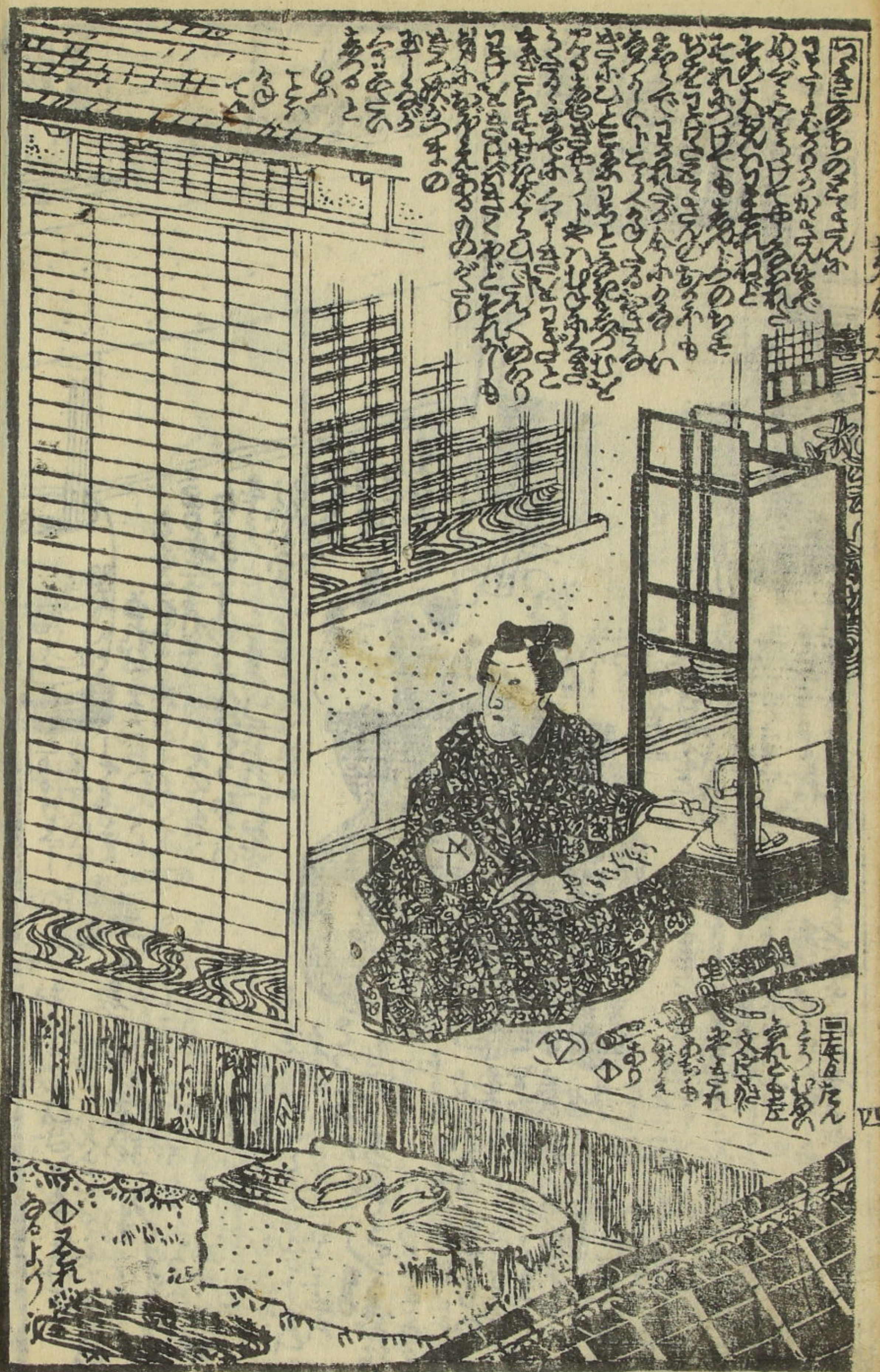
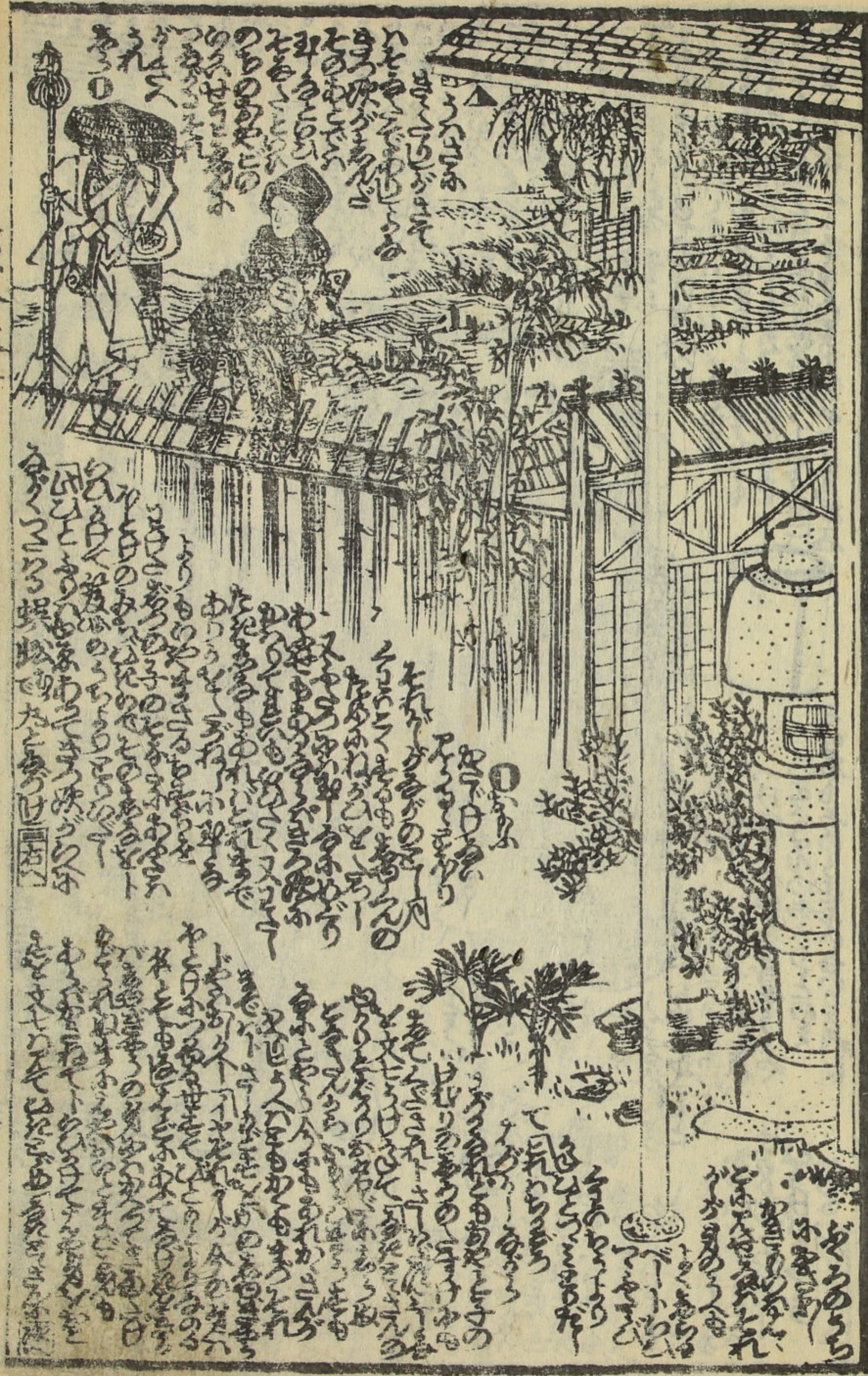


阿奴  
鬼大夫の孫女見

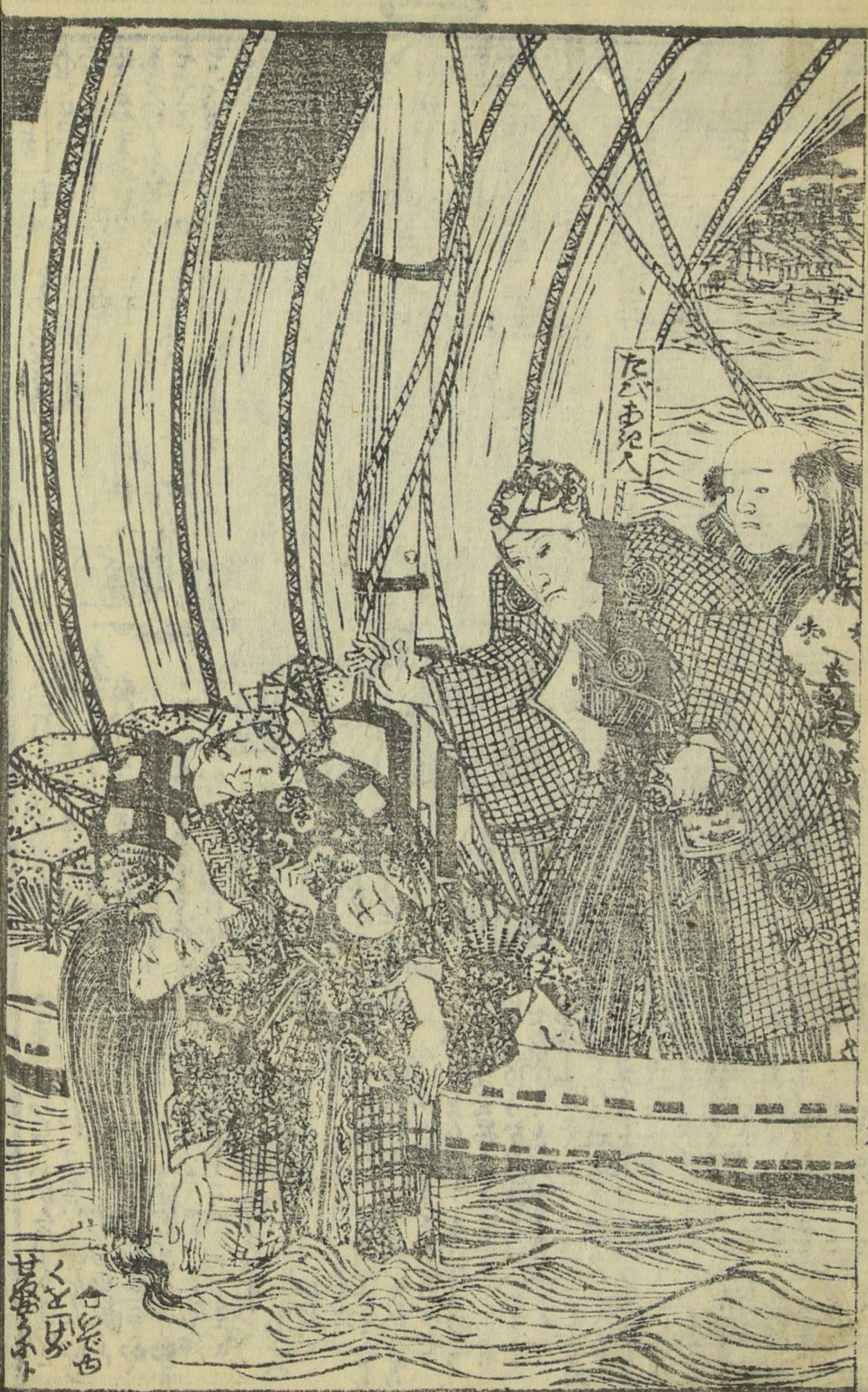
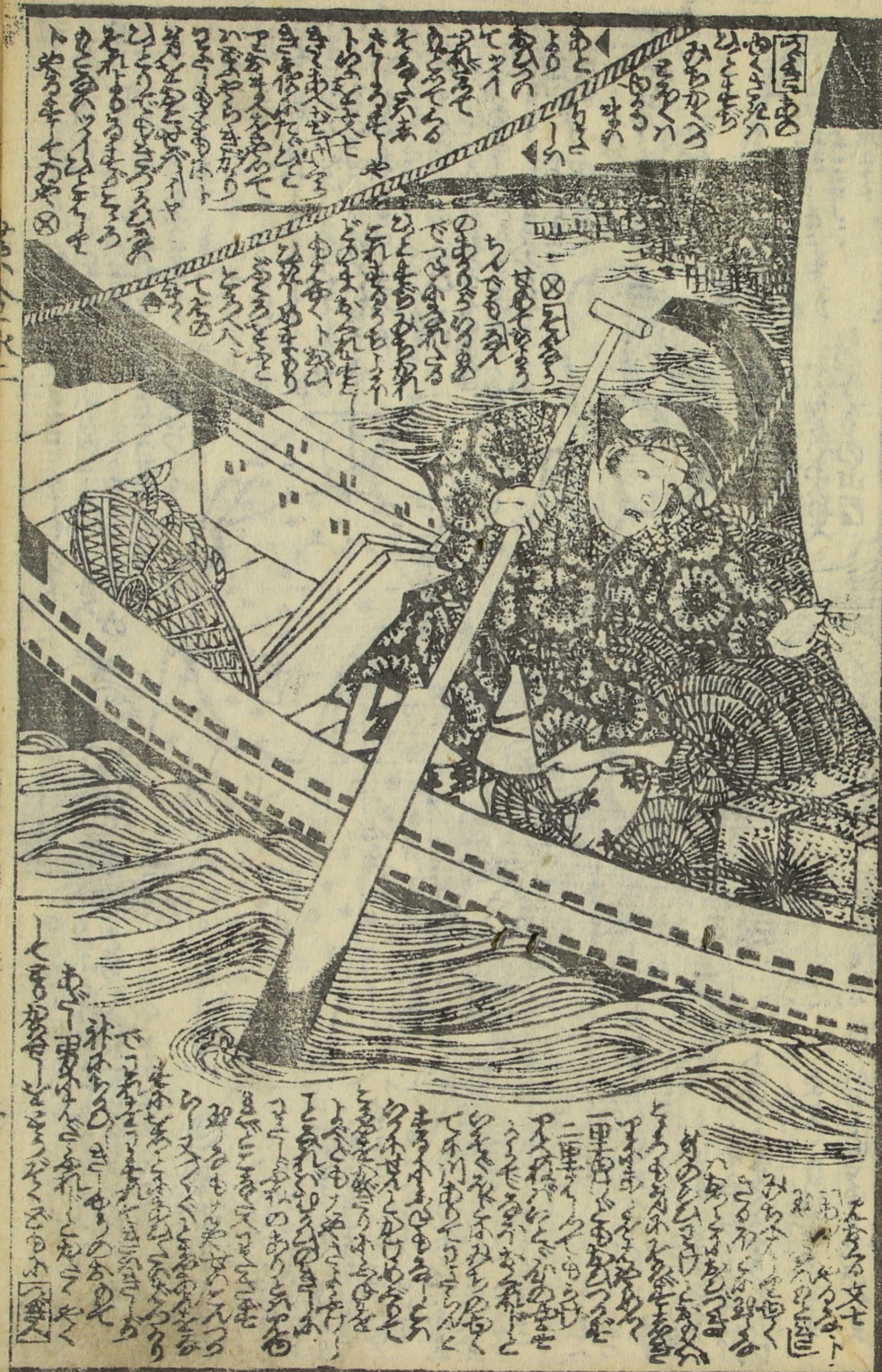
庄官  
鬼大夫

後妻  
舟木











田舎の風景  
田舎の風景  
田舎の風景  
田舎の風景  
田舎の風景  
田舎の風景  
田舎の風景  
田舎の風景  
田舎の風景  
田舎の風景

田舎の風景  
田舎の風景  
田舎の風景  
田舎の風景  
田舎の風景  
田舎の風景  
田舎の風景  
田舎の風景  
田舎の風景  
田舎の風景



田舎の風景  
田舎の風景  
田舎の風景  
田舎の風景  
田舎の風景  
田舎の風景  
田舎の風景  
田舎の風景  
田舎の風景  
田舎の風景

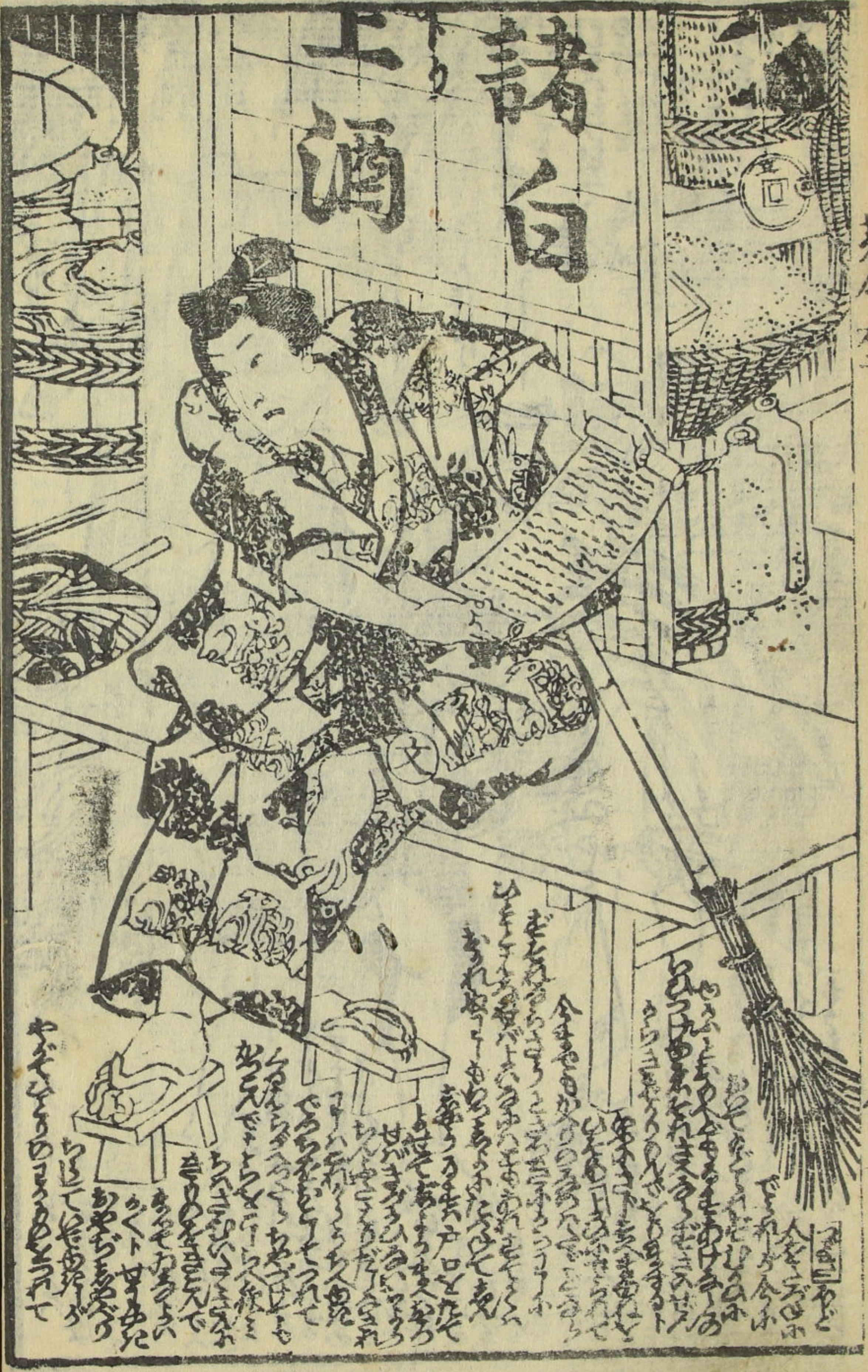
田舎の風景  
田舎の風景  
田舎の風景  
田舎の風景  
田舎の風景  
田舎の風景  
田舎の風景  
田舎の風景  
田舎の風景  
田舎の風景



Vertical Japanese text on the left side of the illustration, likely a dialogue or narrative passage.

Vertical Japanese text on the left side of the illustration, continuing the dialogue or narrative.

Large blocks of vertical Japanese text interspersed around the man, possibly representing his speech or internal thoughts.



Vertical Japanese text on the right side of the illustration, likely a dialogue or narrative passage.

Small vertical text on the far left edge of the page.

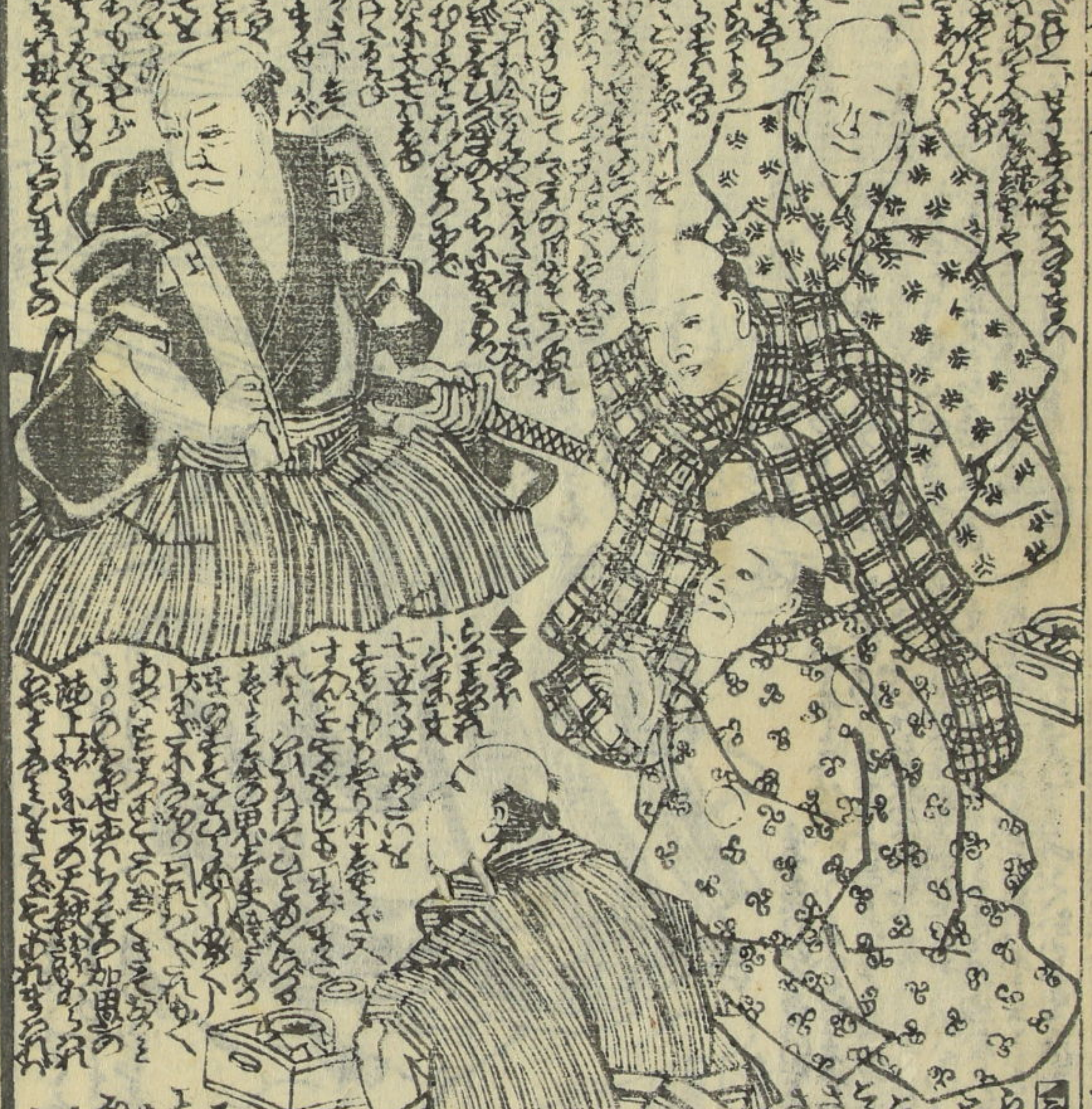
Small vertical text on the far right edge of the page.



Handwritten text in a cursive script, likely a historical or religious manuscript, covering the top and bottom portions of the left page.



Handwritten text in a cursive script, continuing the manuscript from the left page, covering the top and bottom portions of the right page.



Vertical handwritten text or a signature located on the right edge of the right page.

Vertical handwritten text or a signature located on the right edge of the right page.

春水作  
為永春水作  
黃金水大盡盃  
柳亭種月作  
琴聲羨人錄  
雙亭仙果作  
根源實業  
柳煙亭種久作  
假名  
一休草紙



國輝画  
保名酒屋  
中村吉太郎製

曲亭馬琴作

新編金瓶梅全輯

十篇大尾

同

女郎花五色石臺

十篇大尾

同

小女郎如怨苧環

三篇大尾

柳下亭種員作

兒雷也豪傑譚

為永春水作

黃金水大盡盃

柳亭種月作

琴聲羨人錄

雙亭仙果作

根源實業

柳煙亭種久作

假名  
一休草紙

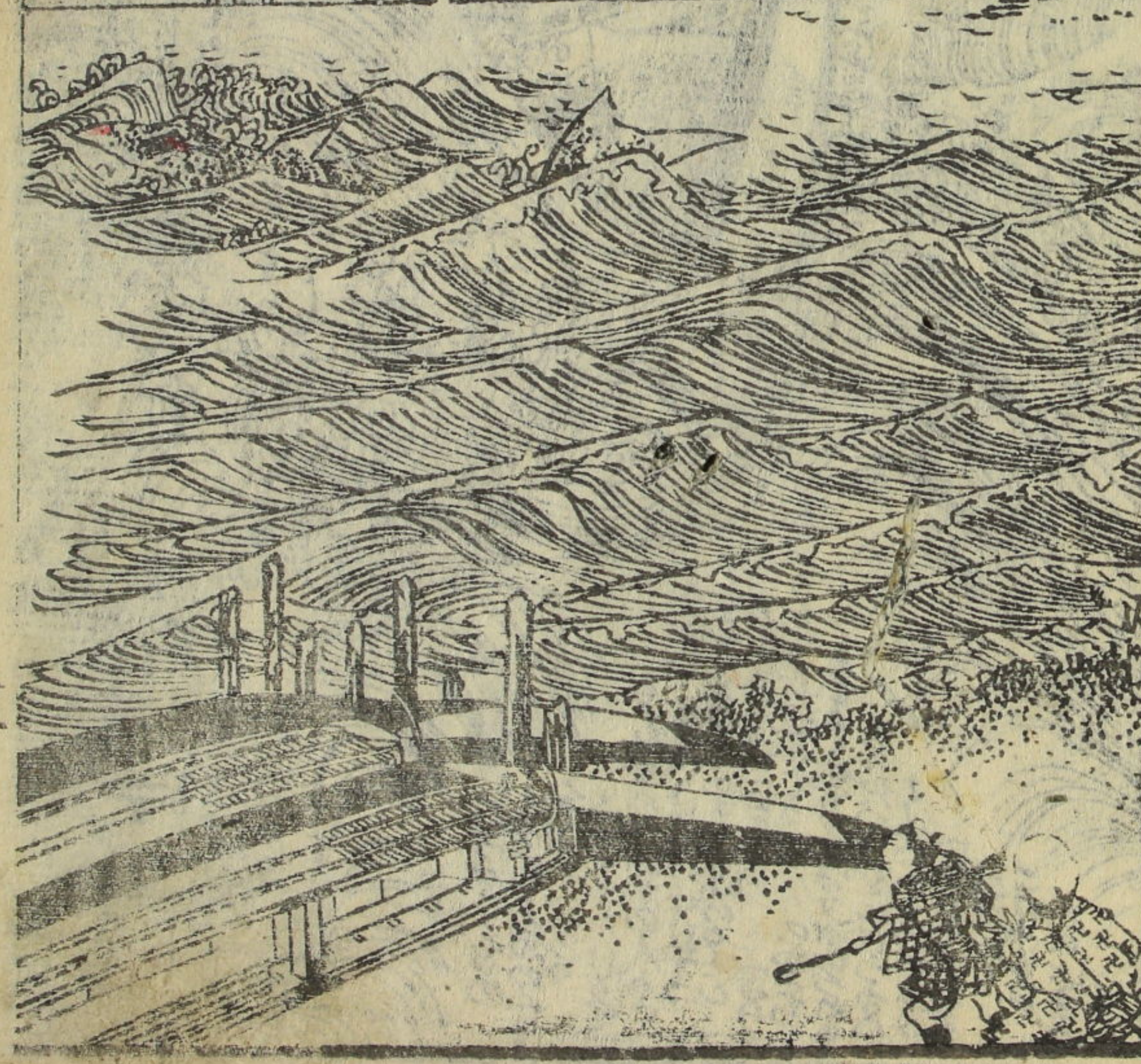
黄金水大盡盃下の巻

四





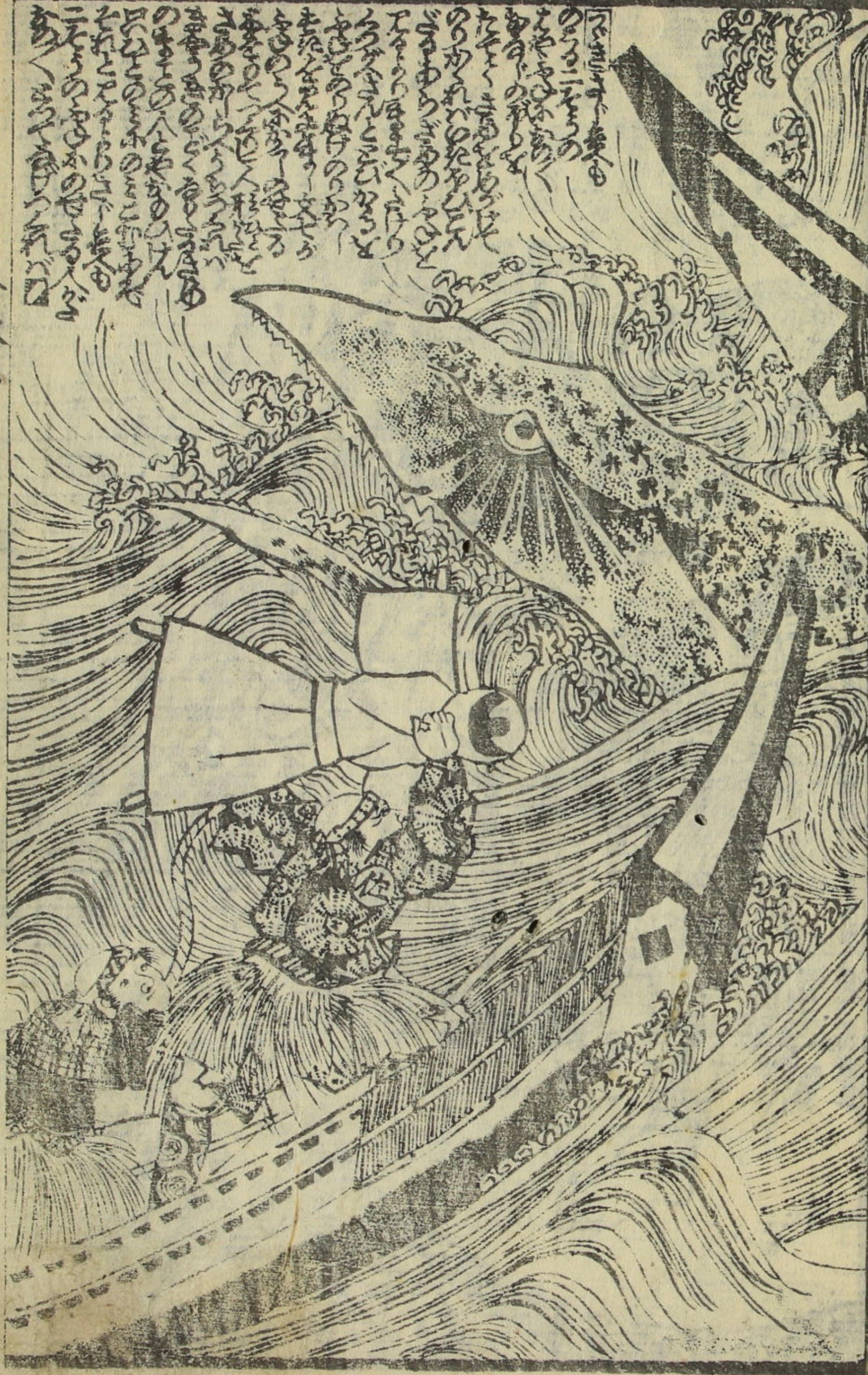
Handwritten text in a cursive script, likely a historical account or a narrative. The text is densely packed and covers the upper portion of the left page.



Handwritten text in a cursive script, likely a historical account or a narrative. The text is densely packed and covers the upper portion of the right page.



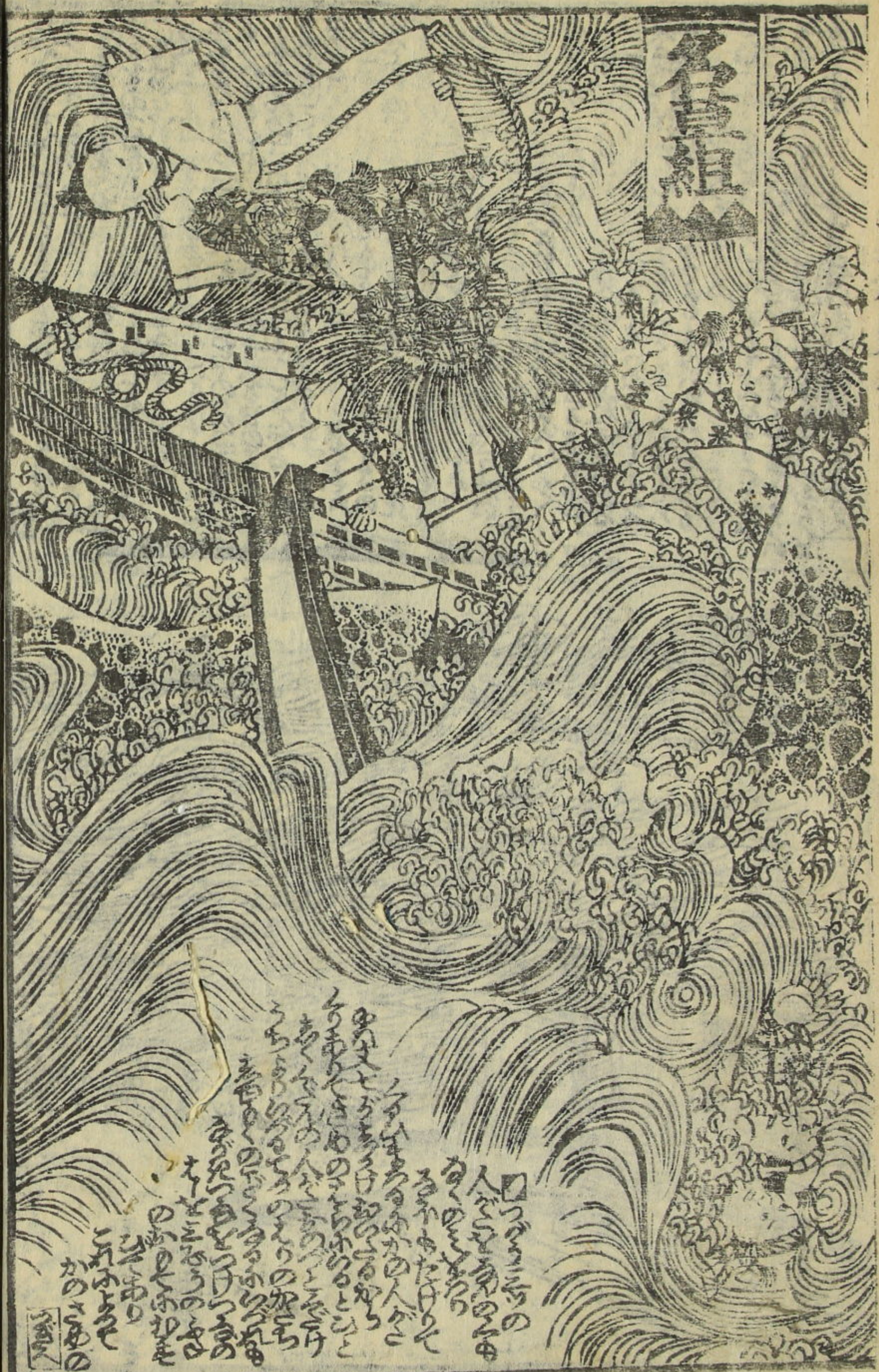
Vertical text on the right edge of the page, possibly a page number or a title.



浪の勢い  
舟の揺り  
旗のたれ  
人々の声  
舟の揺り  
旗のたれ  
人々の声  
舟の揺り  
旗のたれ  
人々の声

舟の揺り

舟の揺り

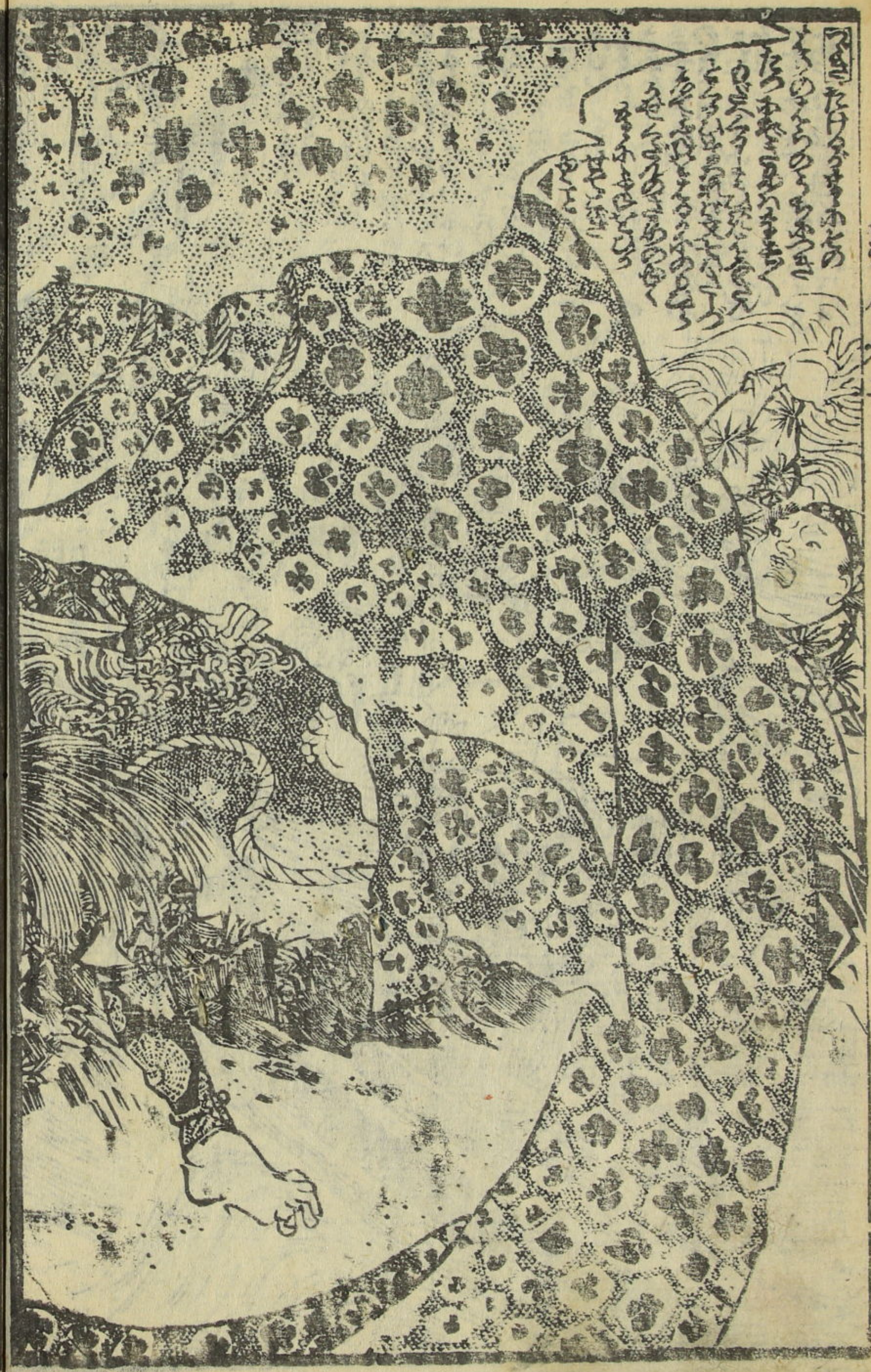


名皇組

浪の勢い  
舟の揺り  
旗のたれ  
人々の声  
舟の揺り  
旗のたれ  
人々の声  
舟の揺り  
旗のたれ  
人々の声

舟の揺り

舟の揺り







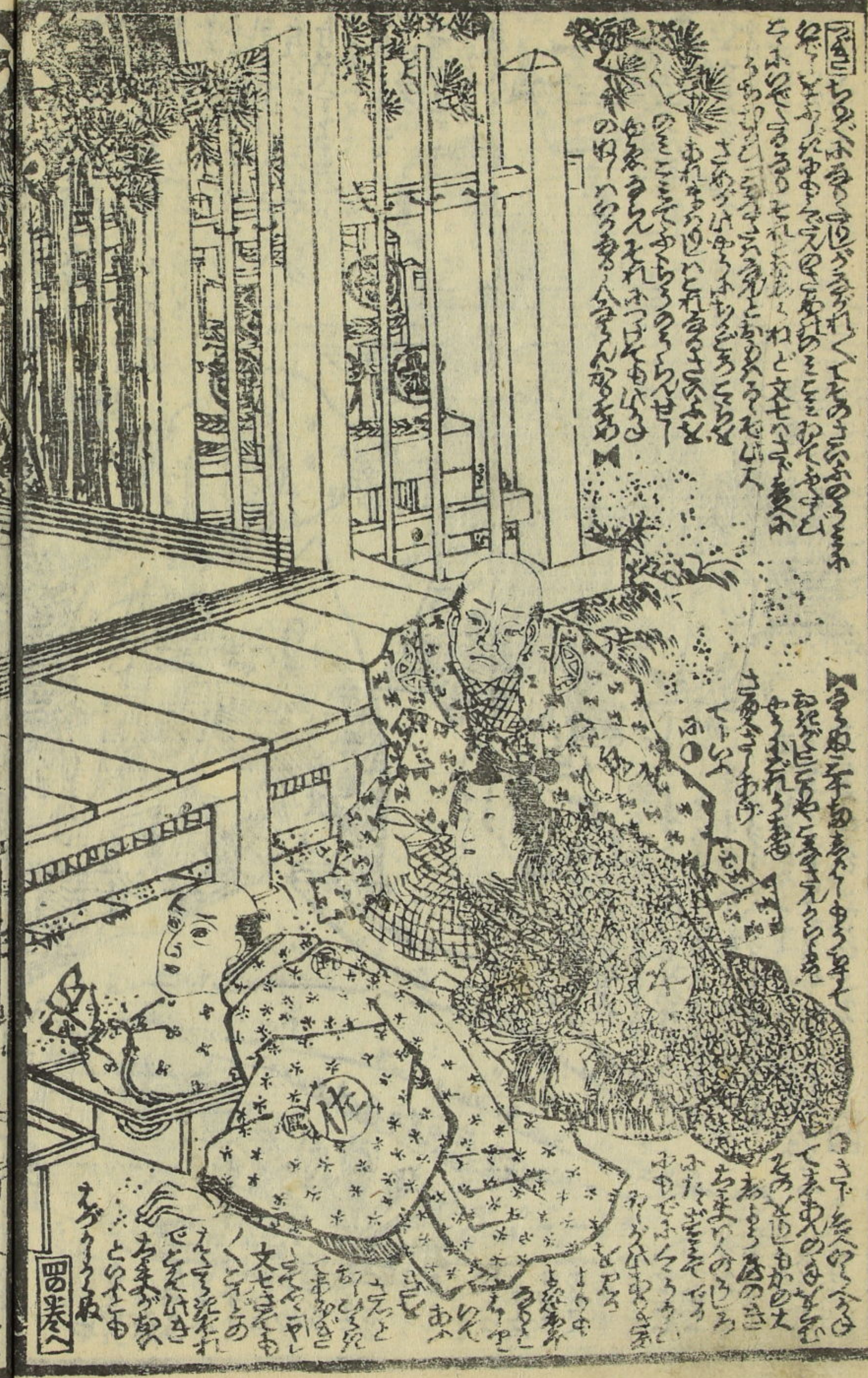


寛政十三年三月廿一日  
 正西郎  
 正西郎は、此の如き  
 遊びをする者は、  
 世に非ざるべし。  
 又、此の如き遊びを  
 する者は、世に非  
 ざるべし。  
 又、此の如き遊びを  
 する者は、世に非  
 ざるべし。

此の如き遊びをする  
 者は、世に非ざるべ  
 し。又、此の如き  
 遊びをする者は、世  
 に非ざるべし。又、  
 此の如き遊びをす  
 る者は、世に非ざる  
 べし。

此の如き遊びをする  
 者は、世に非ざるべ  
 し。又、此の如き  
 遊びをする者は、世  
 に非ざるべし。又、  
 此の如き遊びをす  
 る者は、世に非ざる  
 べし。

正西郎  
 正西郎は、此の如き  
 遊びをする者は、  
 世に非ざるべし。  
 又、此の如き遊びを  
 する者は、世に非  
 ざるべし。  
 又、此の如き遊びを  
 する者は、世に非  
 ざるべし。



此の如き遊びをする  
 者は、世に非ざるべ  
 し。又、此の如き  
 遊びをする者は、世  
 に非ざるべし。又、  
 此の如き遊びをす  
 る者は、世に非ざる  
 べし。

此の如き遊びをする  
 者は、世に非ざるべ  
 し。又、此の如き  
 遊びをする者は、世  
 に非ざるべし。又、  
 此の如き遊びをす  
 る者は、世に非ざる  
 べし。

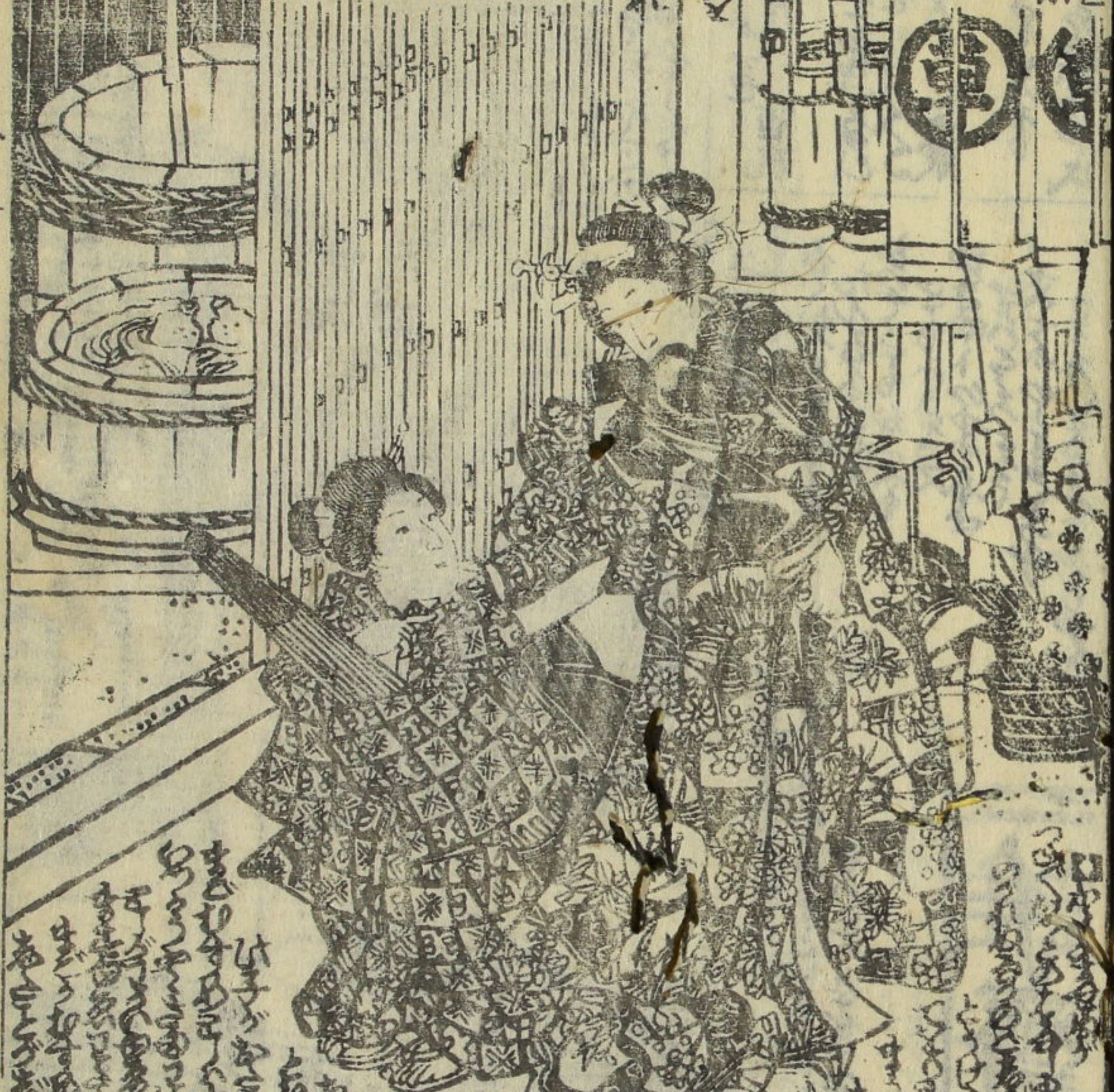
此の如き遊びをする  
 者は、世に非ざるべ  
 し。又、此の如き  
 遊びをする者は、世  
 に非ざるべし。又、  
 此の如き遊びをす  
 る者は、世に非ざる  
 べし。





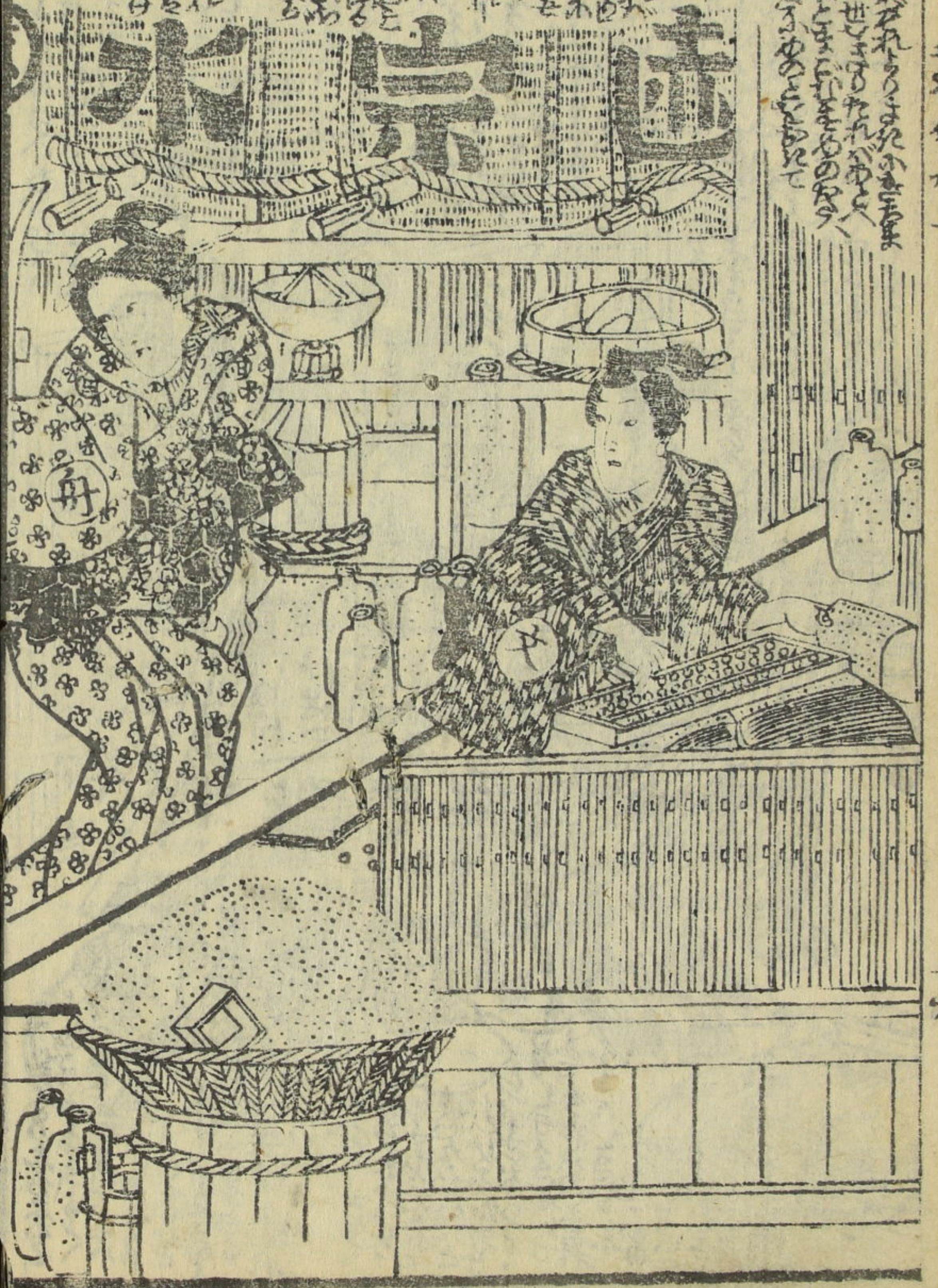


Vertical text at the top of the left page, likely a title or introductory text.



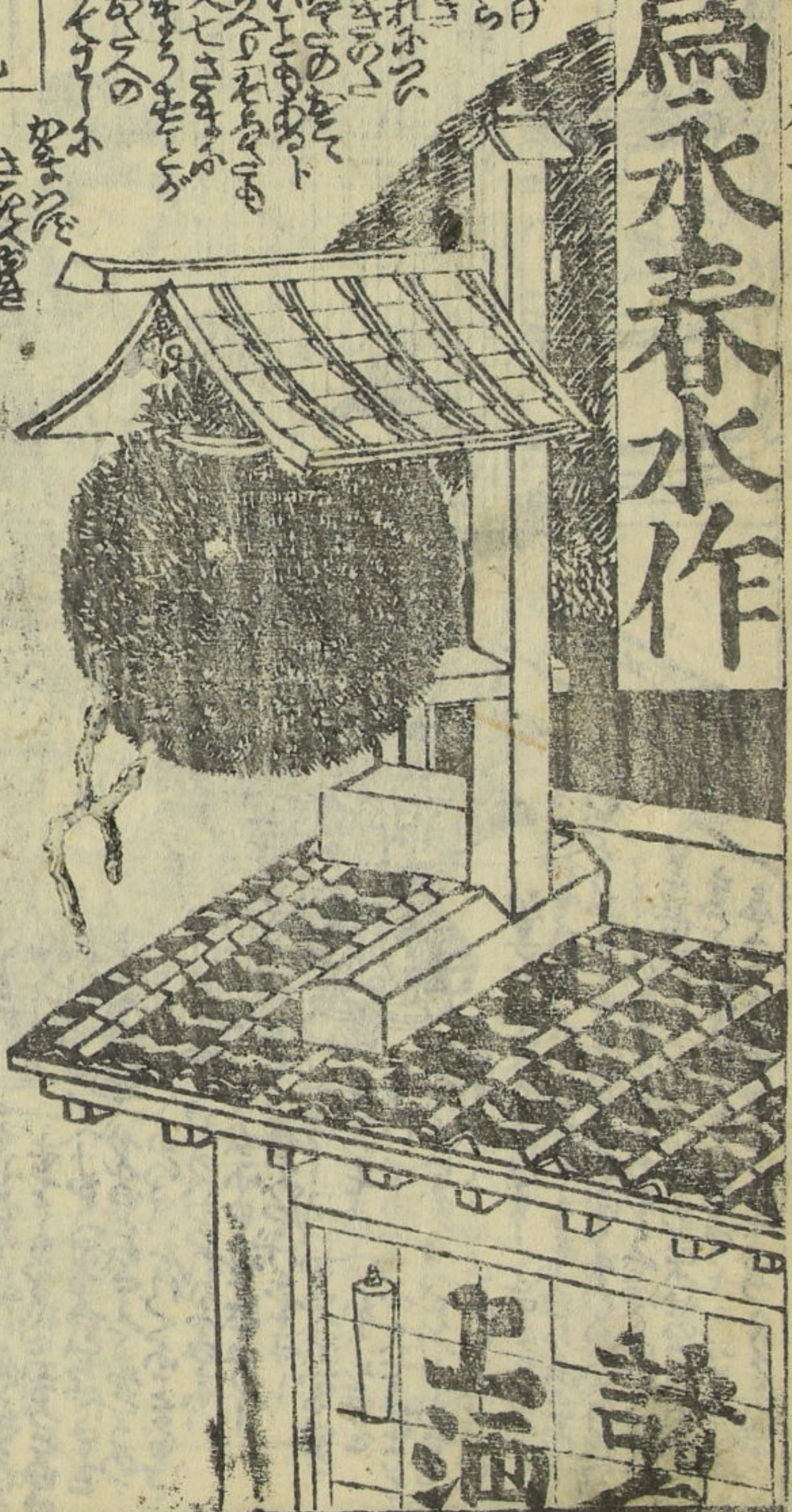
Vertical text at the bottom of the left page, likely a commentary or continuation of the text above.

Vertical text at the top of the right page, likely a title or introductory text.



Vertical text on the far right edge of the right page, likely a title or introductory text.

烏水春水作



此の書は、  
 烏水春水作の  
 小説である。  
 内容は、  
 江戸の町を  
 舞台にした  
 人情話である。  
 作者は、  
 烏水春水と  
 いう。  
 此の書は、  
 江戸の町を  
 舞台にした  
 人情話である。  
 作者は、  
 烏水春水と  
 いう。

朝鮮牛肉丸 一色 百孔

此の書は、  
 朝鮮牛肉丸の  
 小説である。  
 内容は、  
 朝鮮の町を  
 舞台にした  
 人情話である。  
 作者は、  
 朝鮮牛肉丸と  
 いう。

此の書は、  
 雄齋國輝の  
 小説である。  
 内容は、  
 江戸の町を  
 舞台にした  
 人情話である。  
 作者は、  
 雄齋國輝と  
 いう。

雄齋國輝画

十返舎 一丸作  
 滑稽道中膝栗毛

柳水亭種清作  
 豊時田秋漣新雁

柳水亭種清作  
 不思議塚小説櫻

柳水亭種清作  
 怪田姊妹新白石

同  
 風俗浅間ヶ嶽

関太郎 鈴ヶ譚

東橋区銀座四丁目三番地  
 出版人 山中喜太郎

五篇大尾

黄金水大盡盃 上の巻 五

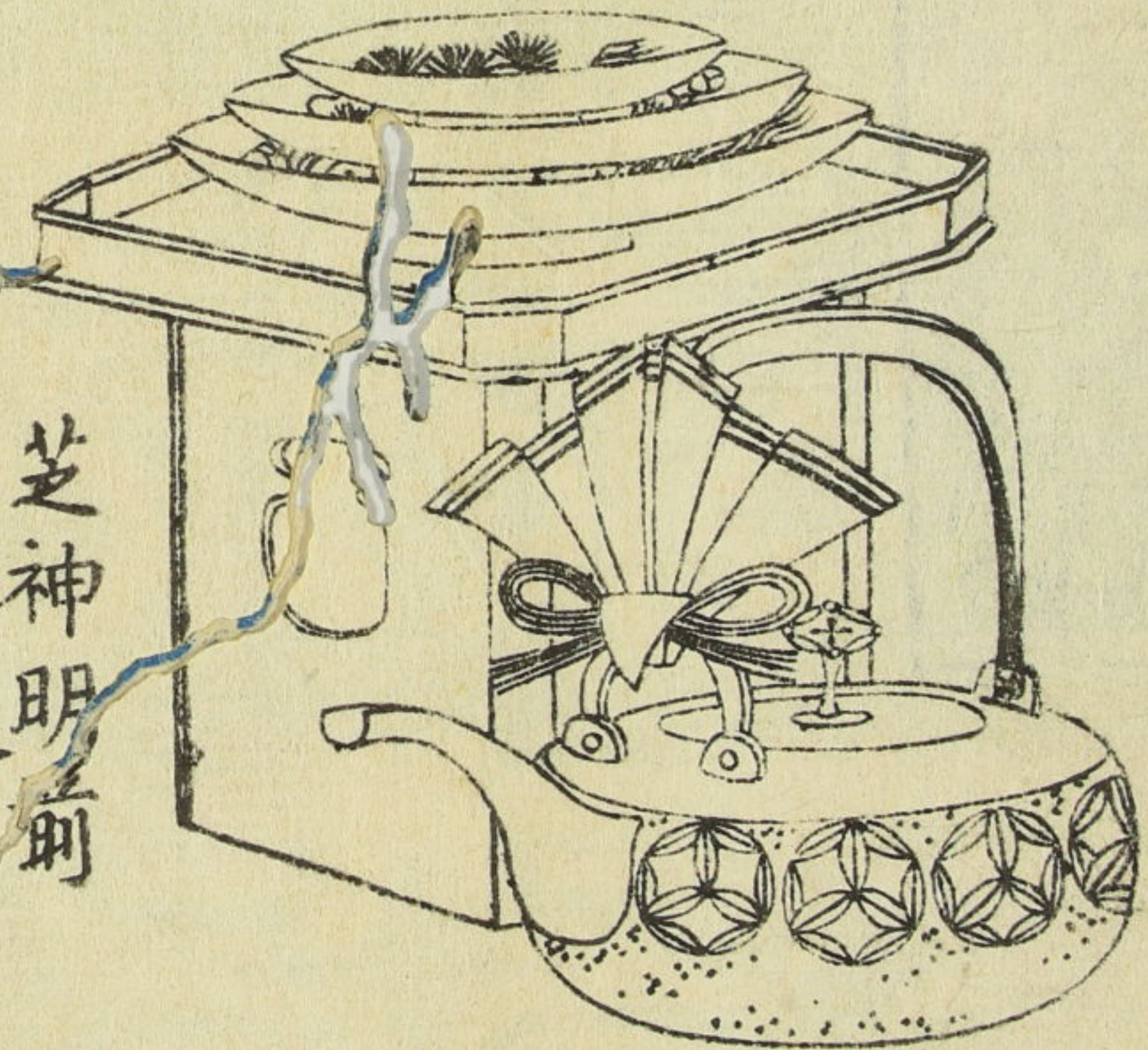


黄金水 こころんをみ

大盡盃 さいじん

上冊

為永春水作  
一雄齋國輝画



芝神明前  
泉市板

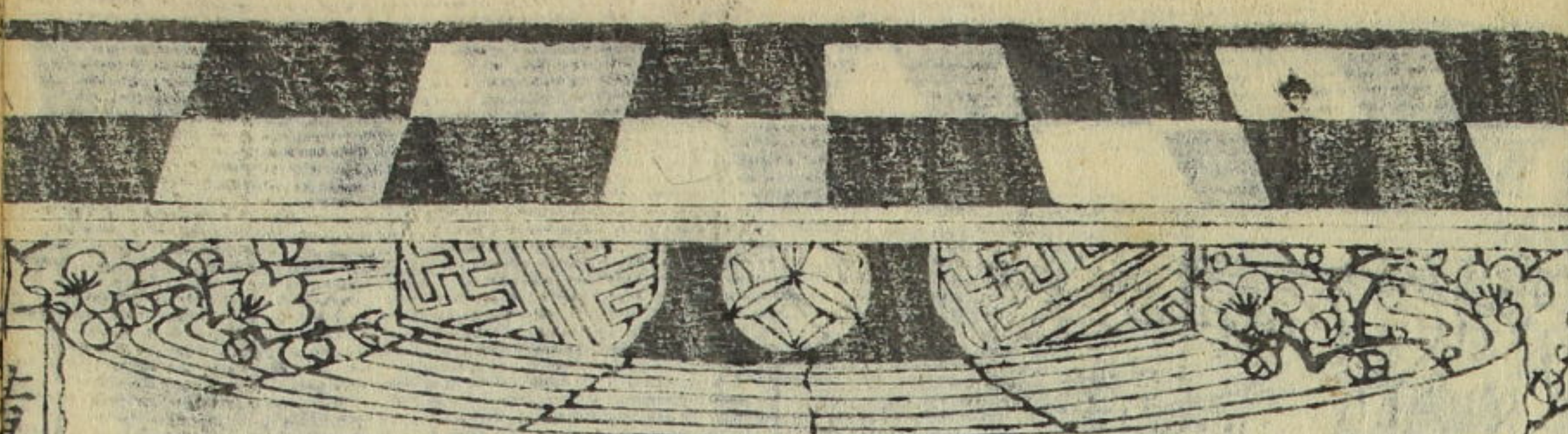
嘉永八拾  
し卯孟春

為永春水記馬

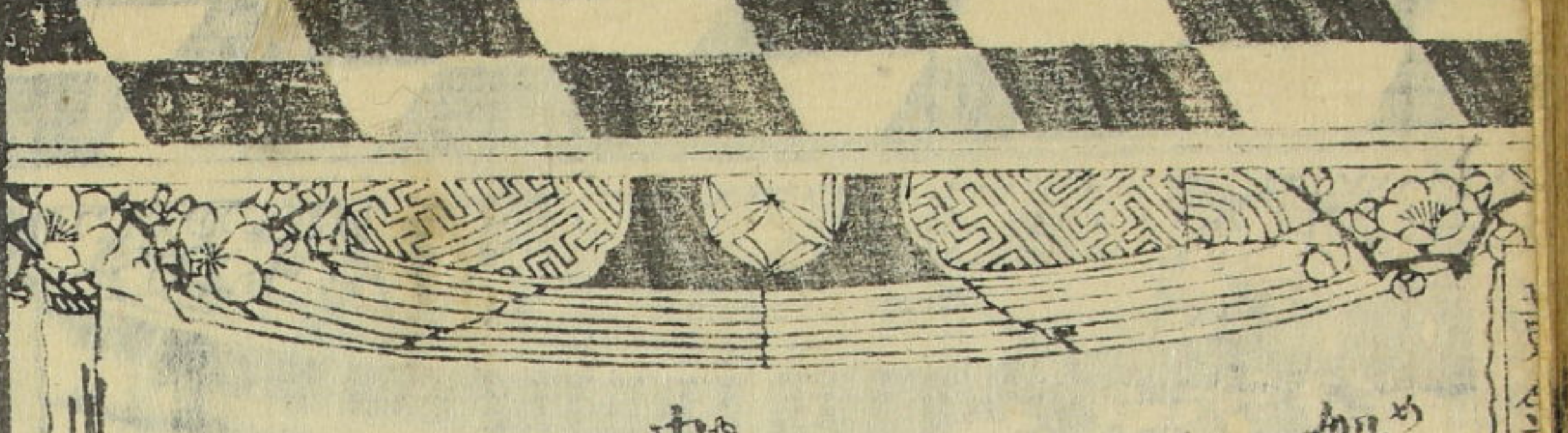
沖のうへに帆をたてしる  
あれは紀の国文左に始て本國と出帆  
この世ふ名をうり紀の國文左に始て本國と出帆  
吾妻ふ船を乗入る手柄を其頃の唱歌  
作り做しとらん六等と作意の種とされし中  
暗い作者の胸の目度も定ぬ現の海は  
此のまへに磁石の文を乗出せし初名は  
成育ふ三編中をだやく文句ふ手間とりて赴向  
ふ碇を入過されば次の編より文七の鎌倉  
下りと綴るま稿本もそやうなり看官  
よろし追風を待てその出帆を山板の  
日を速えれと思へたまひ

黄金水三編

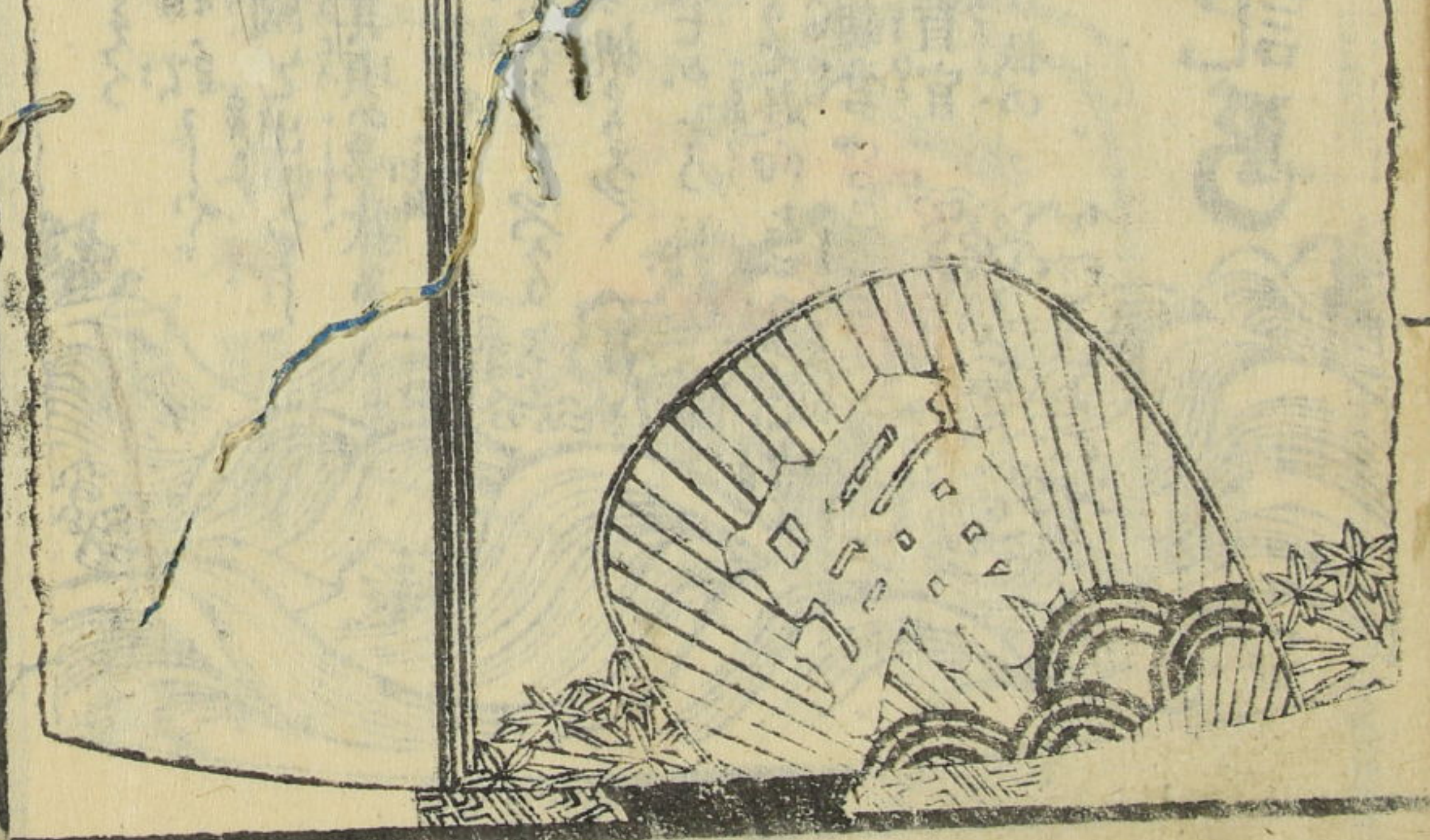




節婦  
阿妙  
潤色  
盆踊  
鐵棒  
寫引  
画工



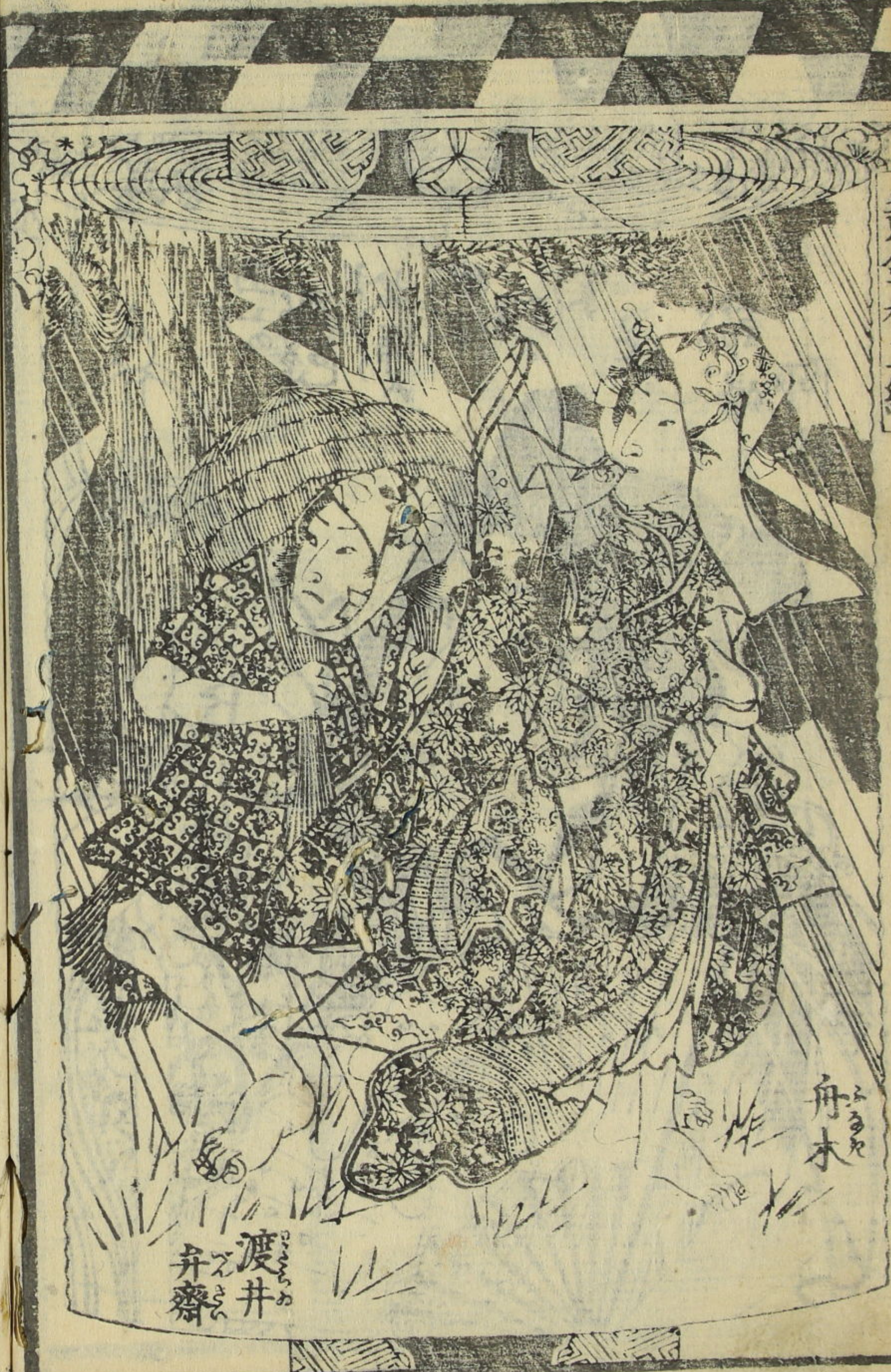
由良敦實  
同苗  
年樓之助  
廢子  
姆岩代





廓通の  
次安を見よ

後文  
大尽と  
魚



渡井  
弁齋

舟木

田舎の女

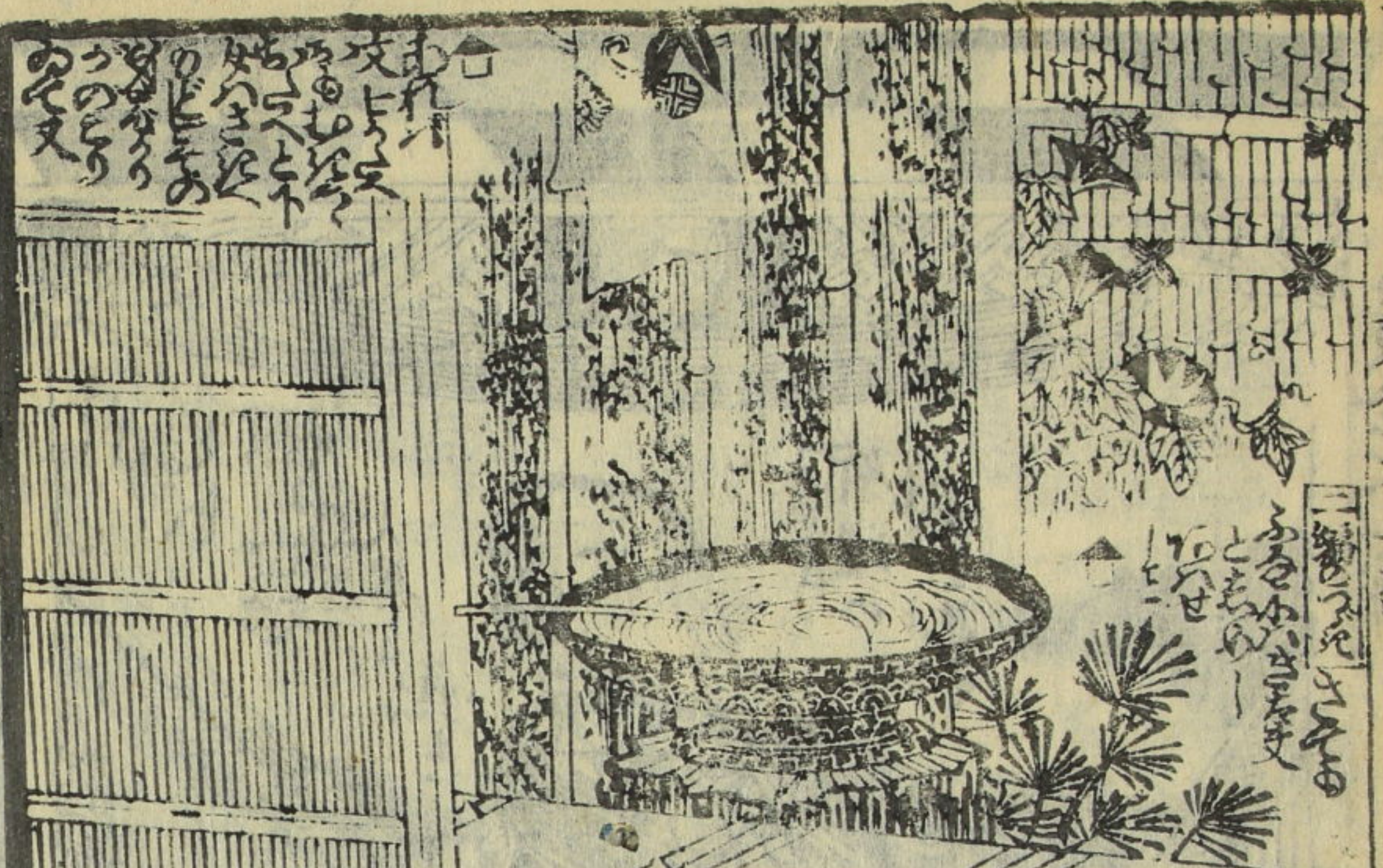


文七  
おのれが

おのれが  
おのれが  
おのれが

おのれが  
おのれが  
おのれが

おのれが  
おのれが  
おのれが



文七  
おのれが

おのれが  
おのれが

おのれが  
おのれが  
おのれが

おのれが  
おのれが  
おのれが

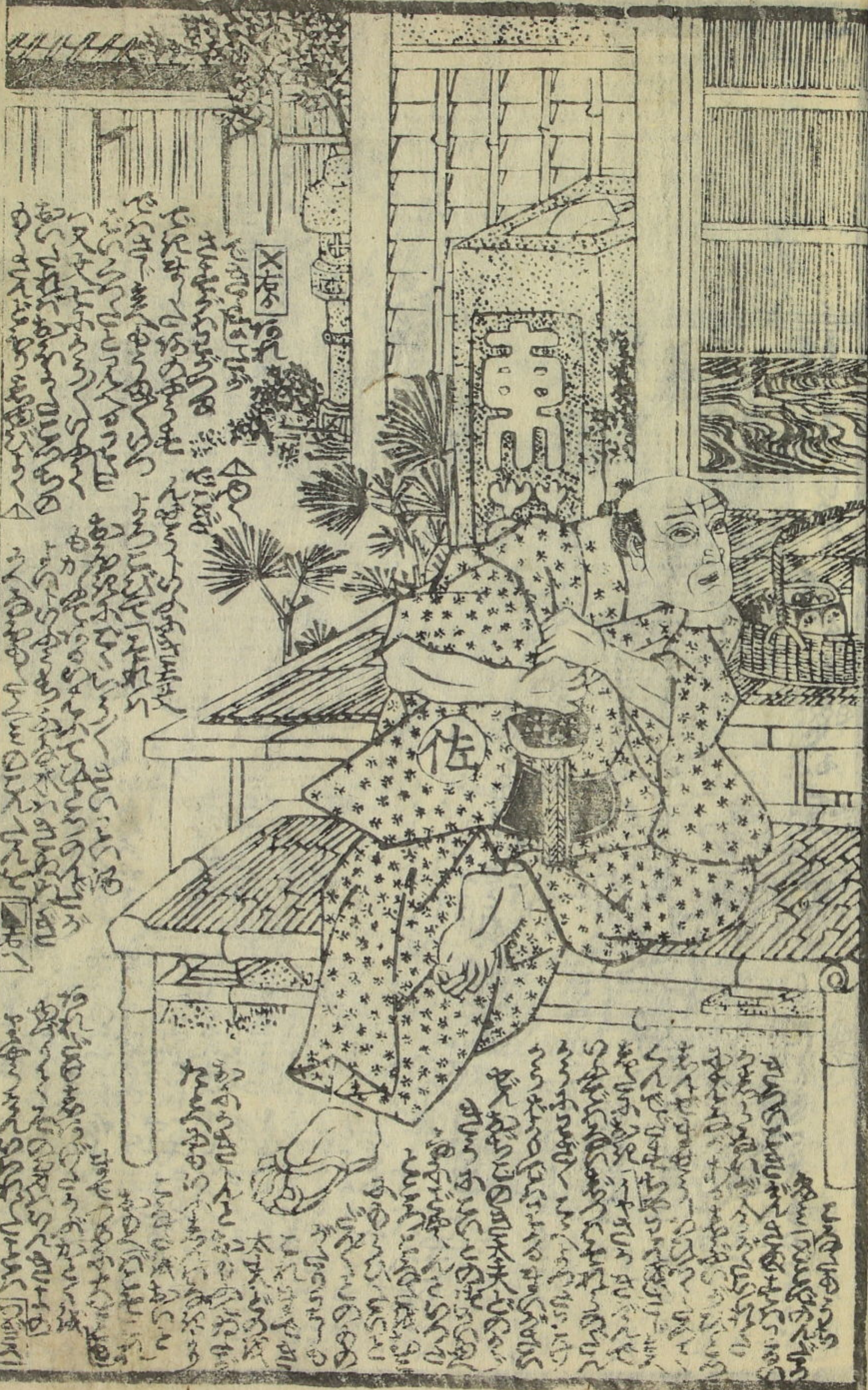






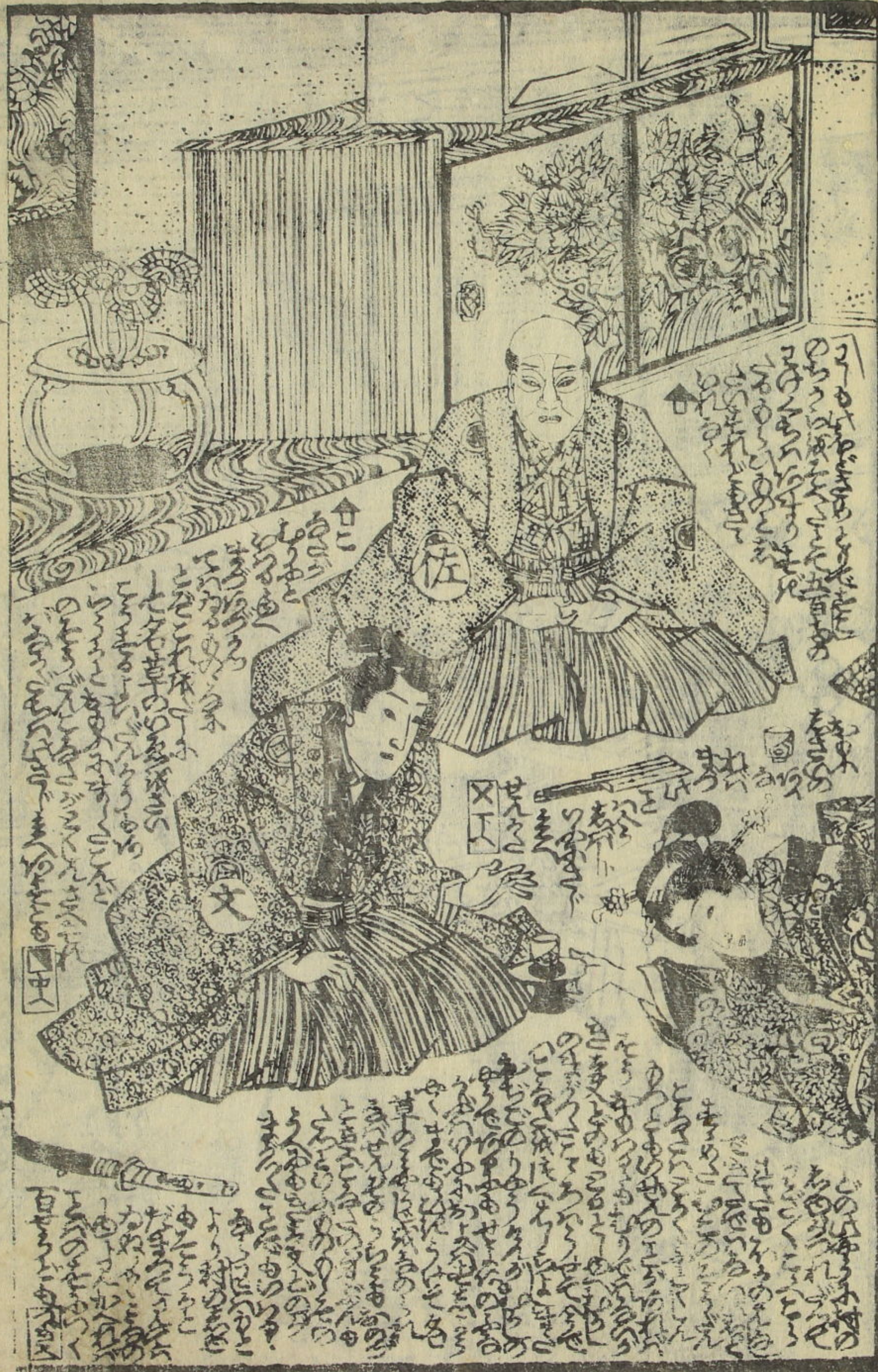
此の如きものも  
 世に多くあるが  
 此の如きものも  
 世に多くあるが  
 此の如きものも  
 世に多くあるが

此の如きものも  
 世に多くあるが  
 此の如きものも  
 世に多くあるが  
 此の如きものも  
 世に多くあるが



此の如きものも  
 世に多くあるが  
 此の如きものも  
 世に多くあるが  
 此の如きものも  
 世に多くあるが

此の如きものも  
 世に多くあるが  
 此の如きものも  
 世に多くあるが  
 此の如きものも  
 世に多くあるが











春水作國輝画

曲亭馬琴作  
新編金瓶梅全輯

十篇大尾

為永春水作  
黃金水大盡盃

同  
女郎花五色石臺

十篇大尾

柳亭種彦作  
琴聲義人錄

同  
小女郎如怨芋環

三篇大尾

笠亭仙果作  
根源實紫

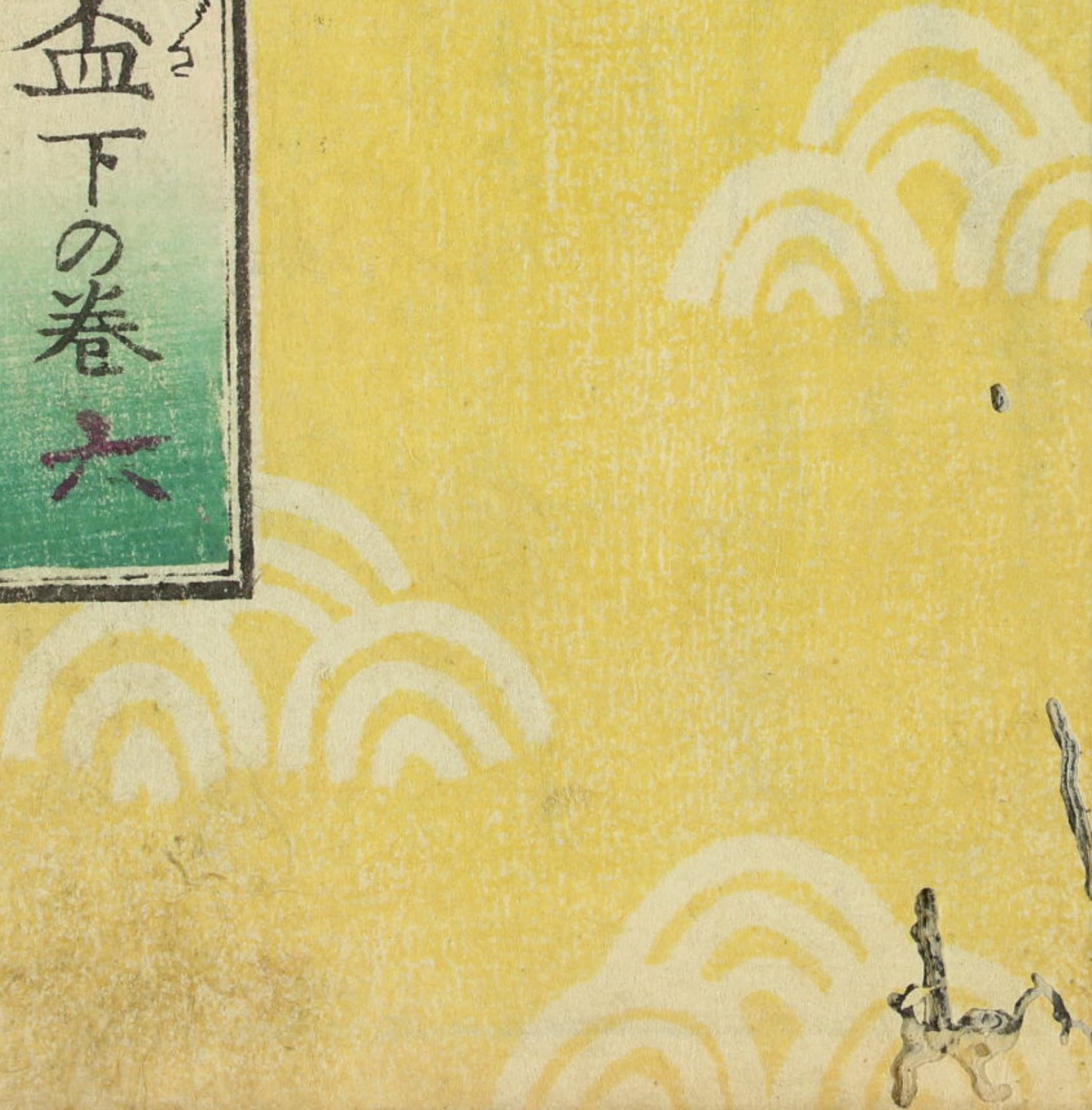
柳下亭神員作  
兒雷也豪傑譚

柳煙亭種久作  
假古  
反古  
一休草紙

黄金水大盡盃下の巻六

こうごんすい  
たいじんすい  
のまくだ  
ろく

泉泉泉  
泉泉泉  
泉泉泉  
泉泉泉  
泉泉泉





昔の金水三編



黄金水くまの巻

下の巻

為多

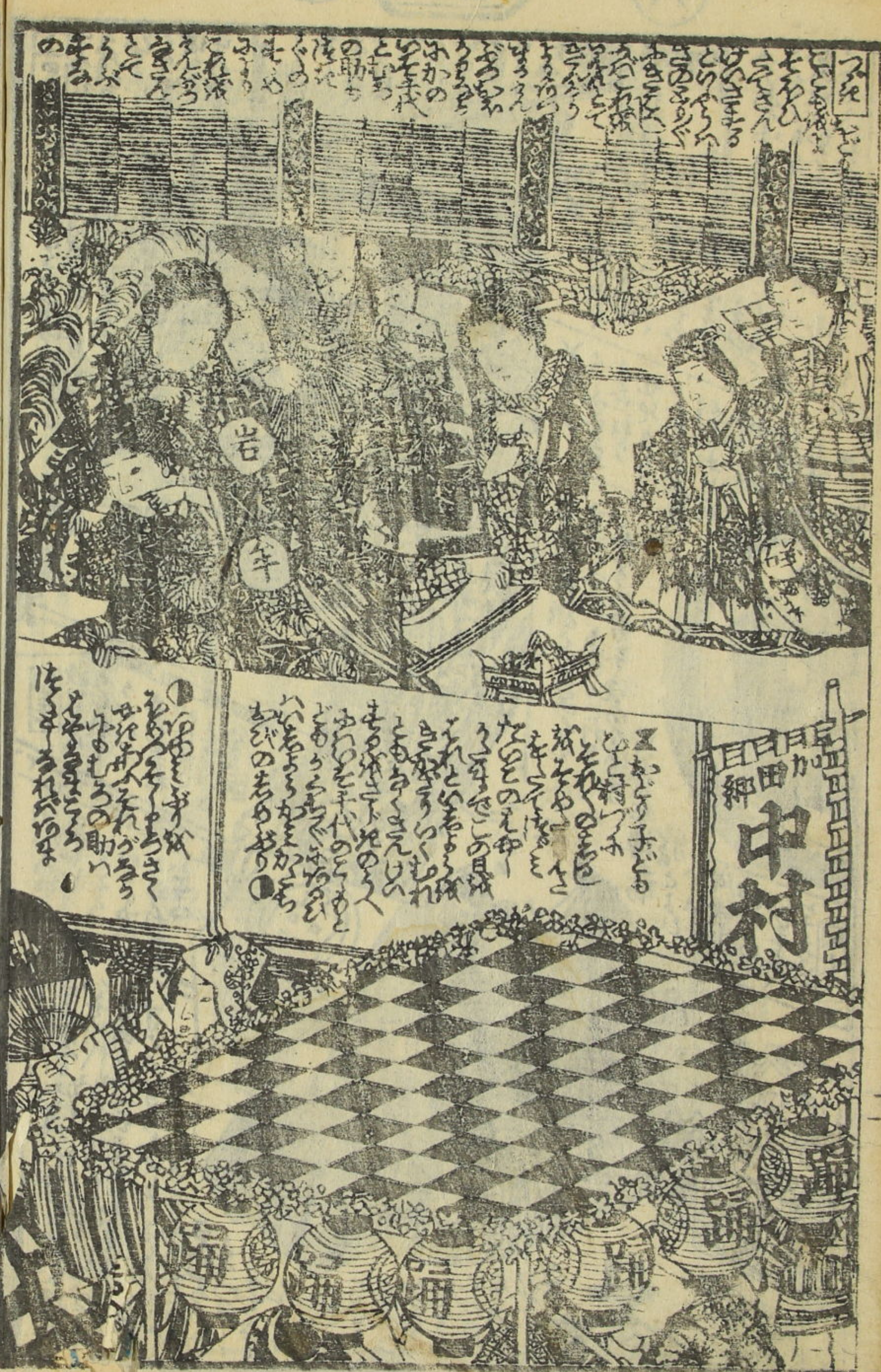
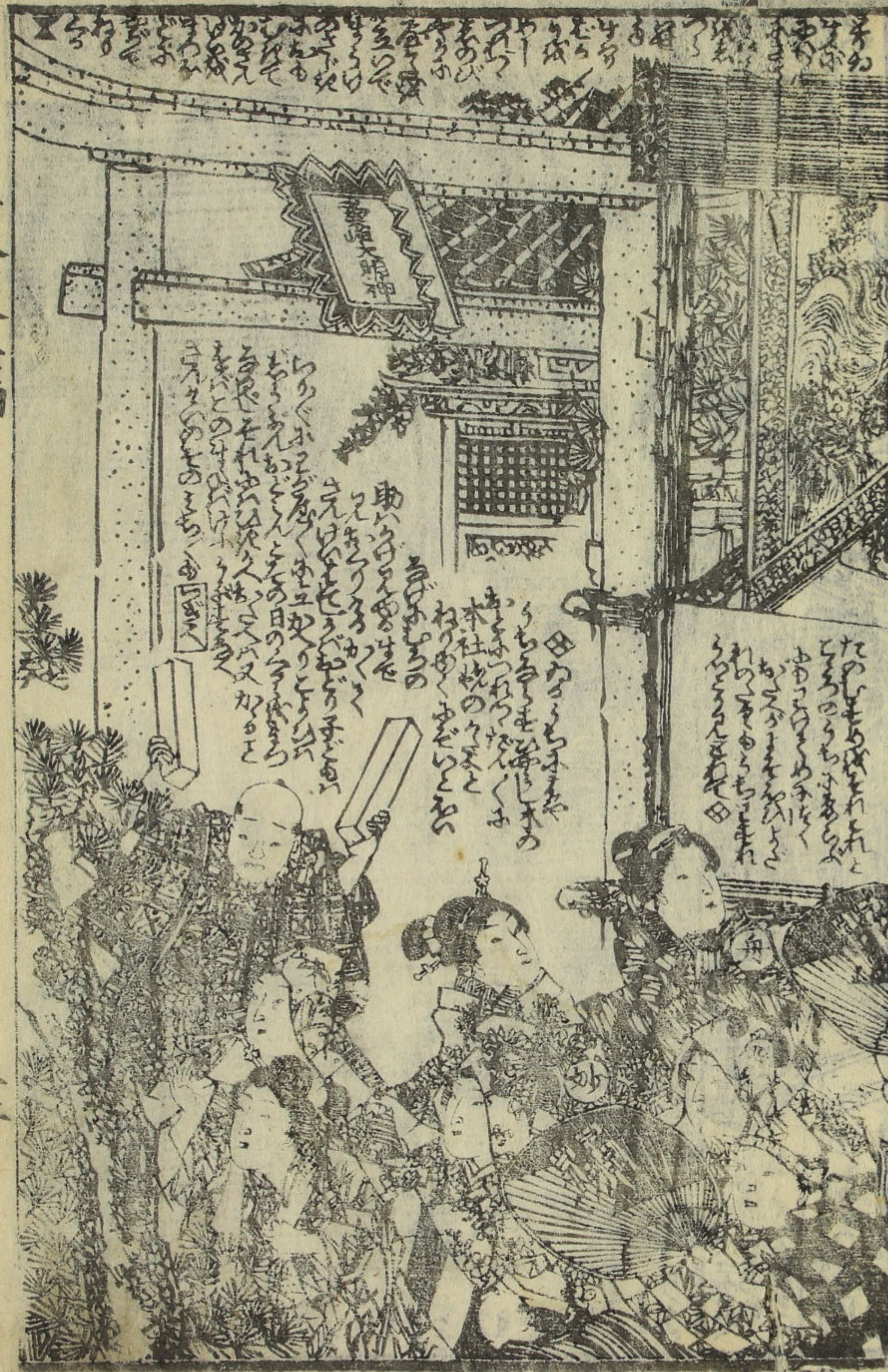
黄金水

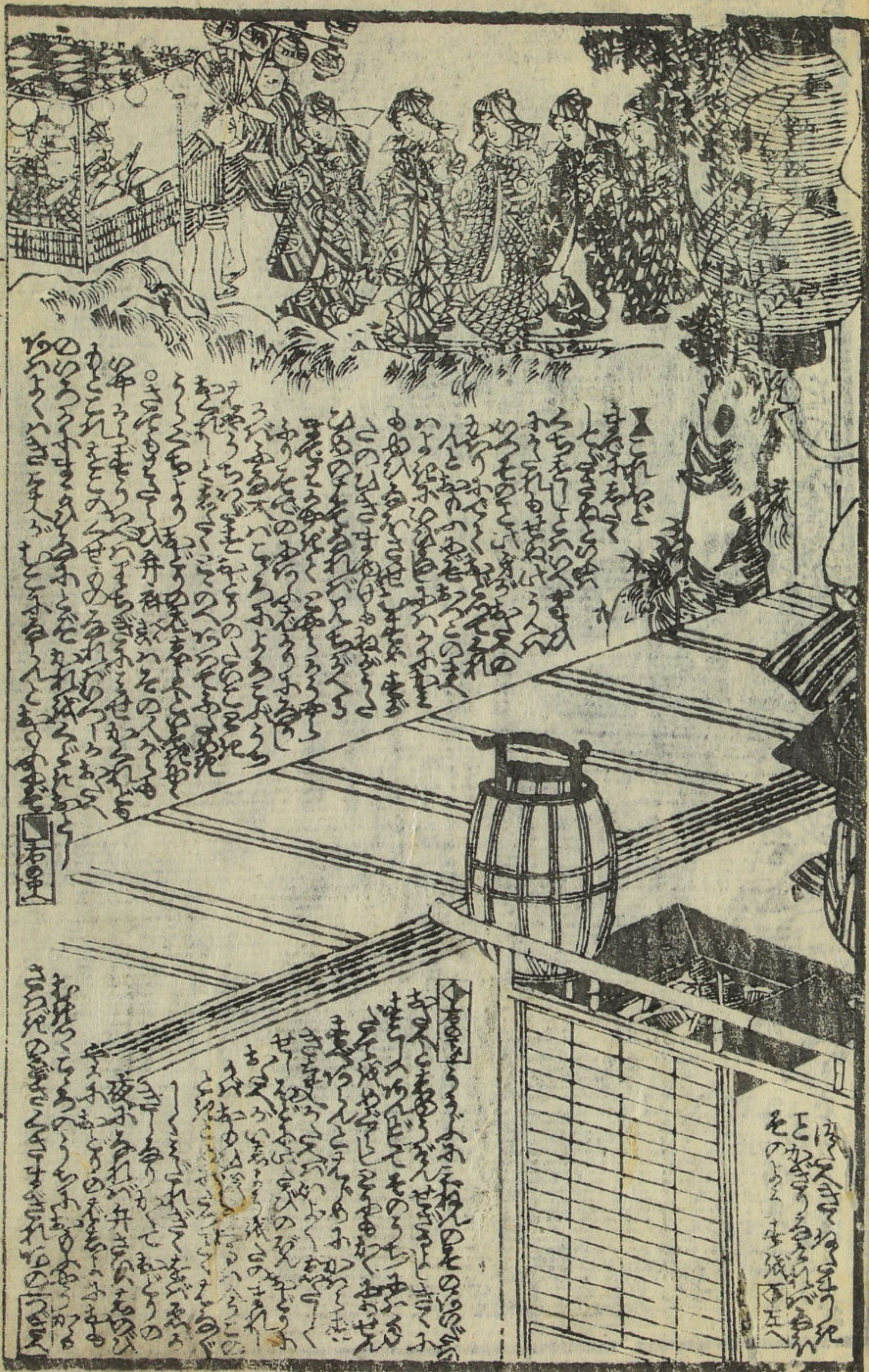
一巻

禪魚

日本名







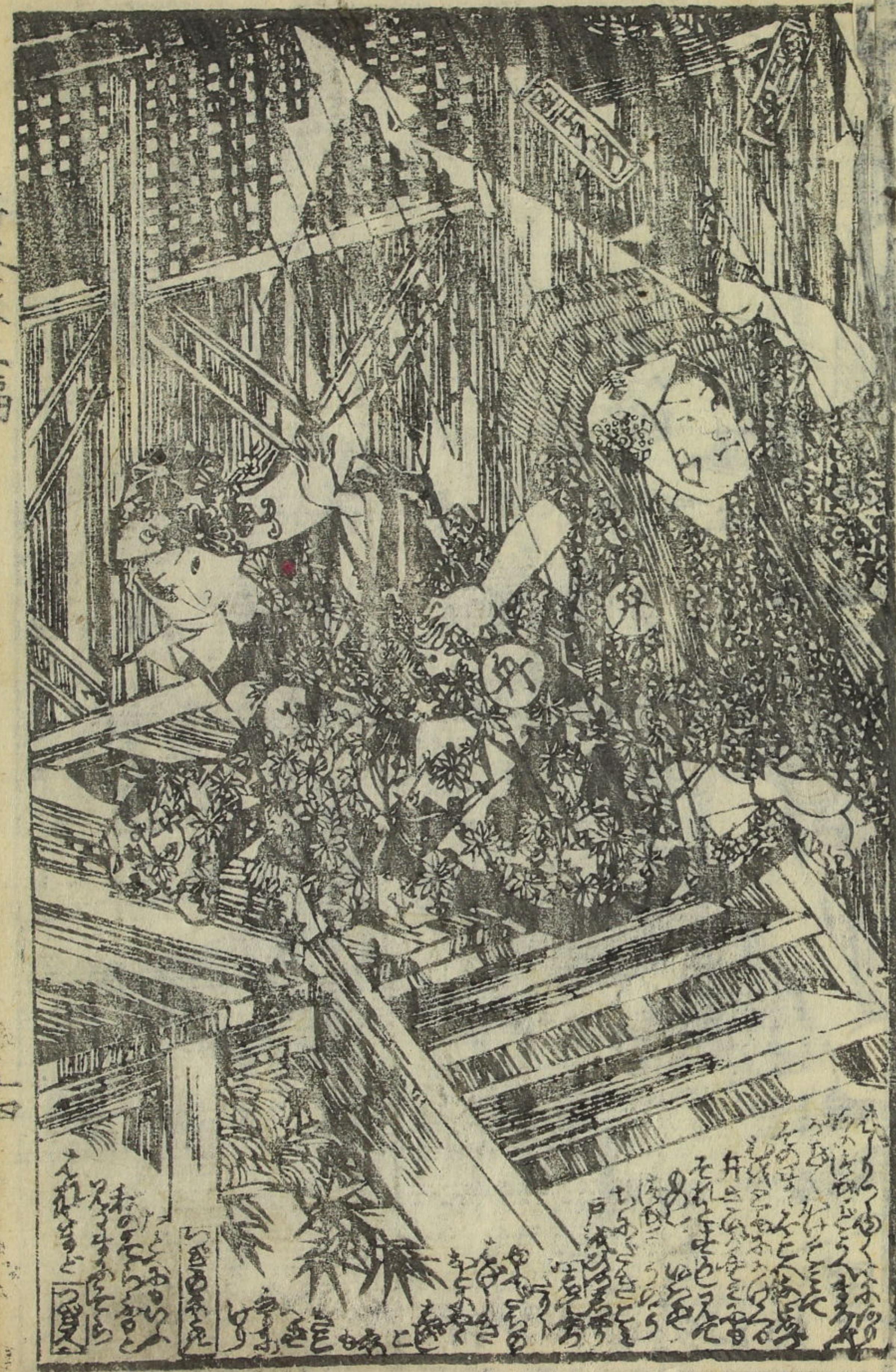
此の物語は、昔の事だといふが、  
 今もその風習が残つてゐる。この  
 桶は、水汲み桶だ。昔は、井戸に  
 桶を下ろして水を汲んで、桶を  
 担いで運んで、家へ持ってくる。

桶を担いで運ぶのは、昔の  
 風習だ。今も、井戸の水を  
 汲んで、桶を担いで運ぶ。



この物語は、昔の事だといふが、  
 今もその風習が残つてゐる。この  
 部屋は、昔の部屋だ。昔は、

部屋に、お茶を飲む。お茶を  
 飲むのは、昔の風習だ。今も、  
 お茶を飲む。お茶を飲むのは、  
 昔の風習だ。今も、お茶を飲む。



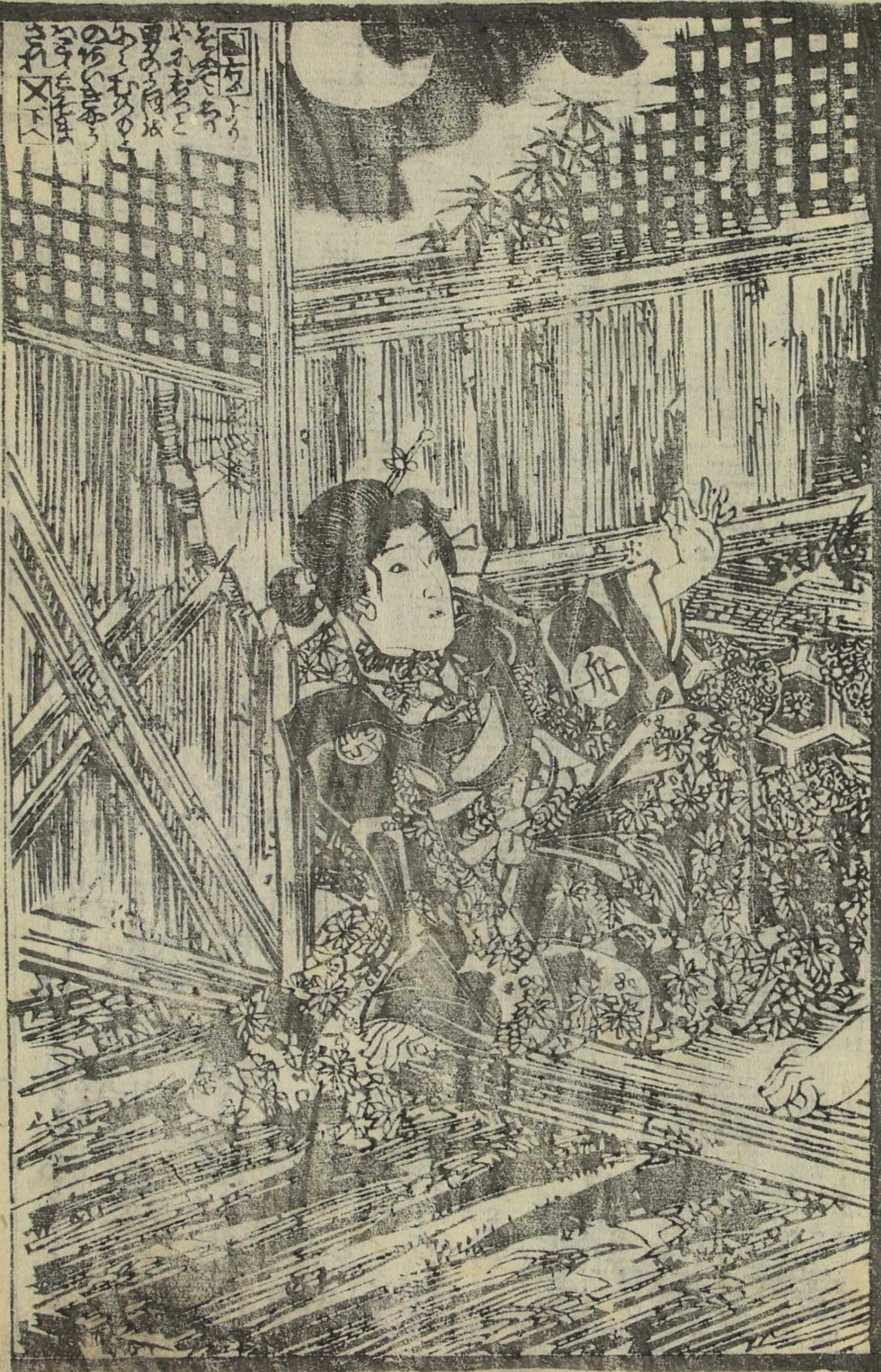
Vertical text on the left margin, likely a chapter or scene title.

Block of vertical Japanese text at the bottom of the left page, likely a commentary or dialogue related to the scene above.



Vertical text on the right margin, likely a chapter or scene title.

Large block of vertical Japanese text at the bottom of the right page, likely a commentary or dialogue related to the scene above.



下  
上

三田

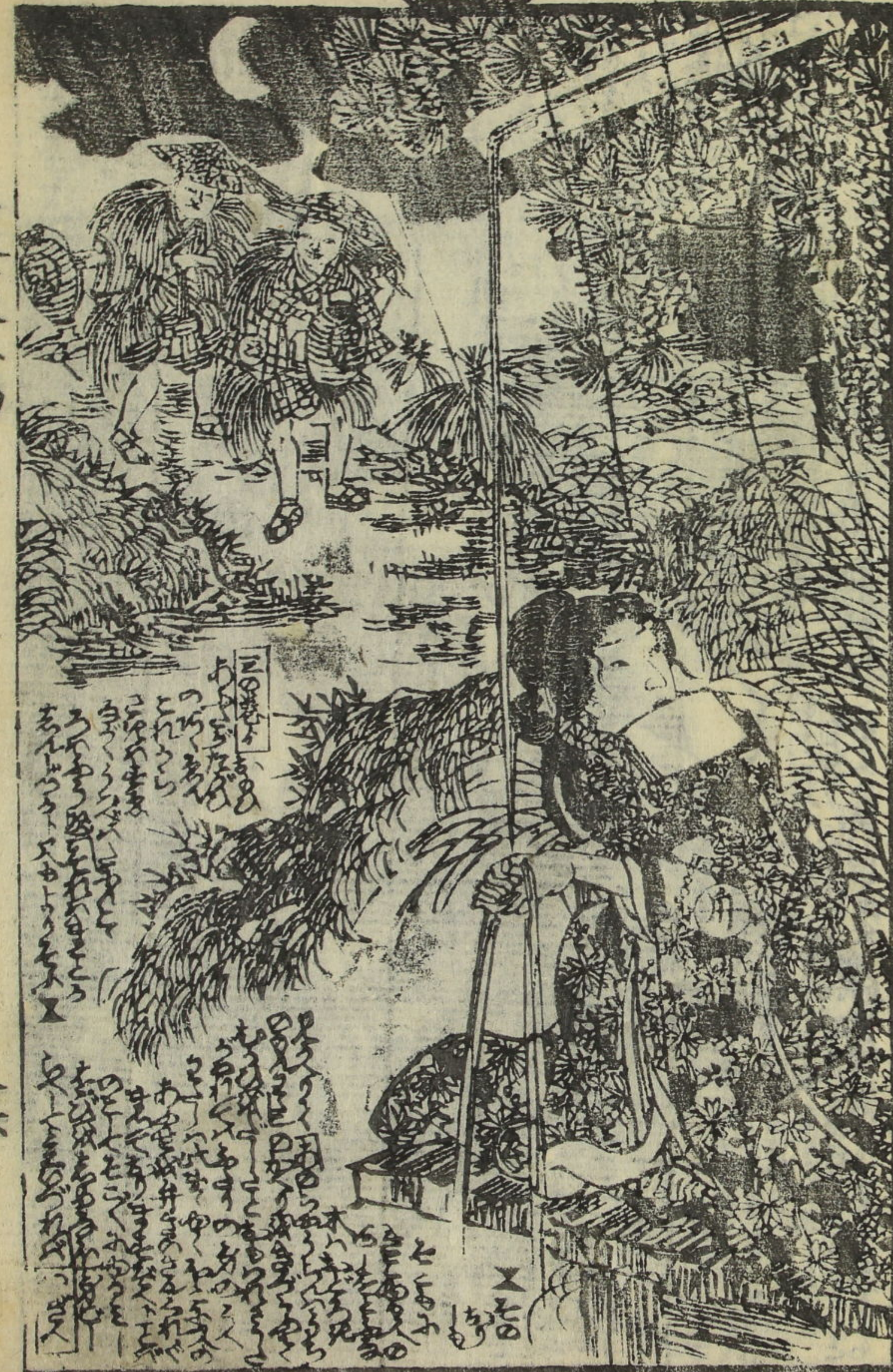


嘉永八年卯正月

賽

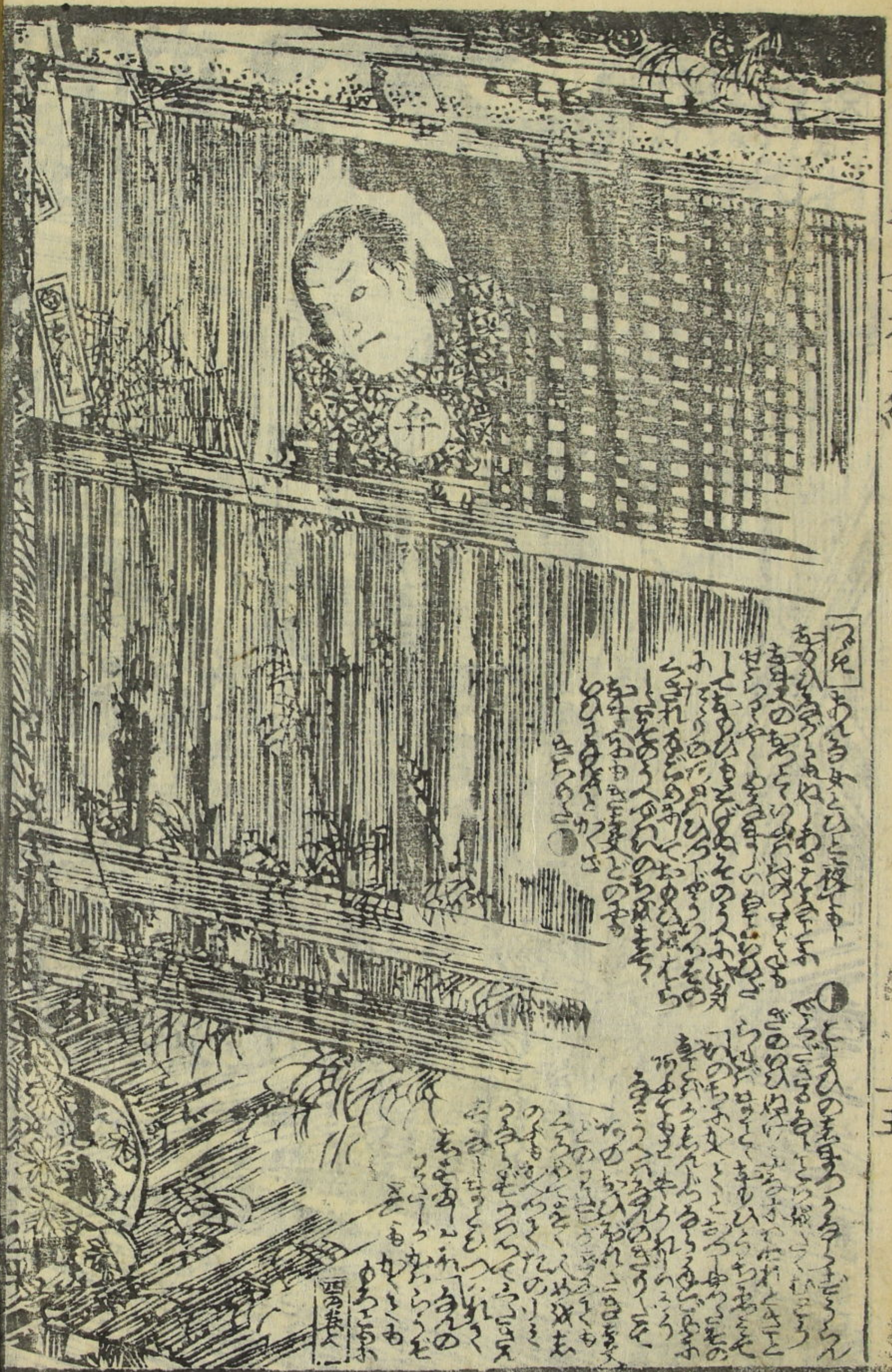
...





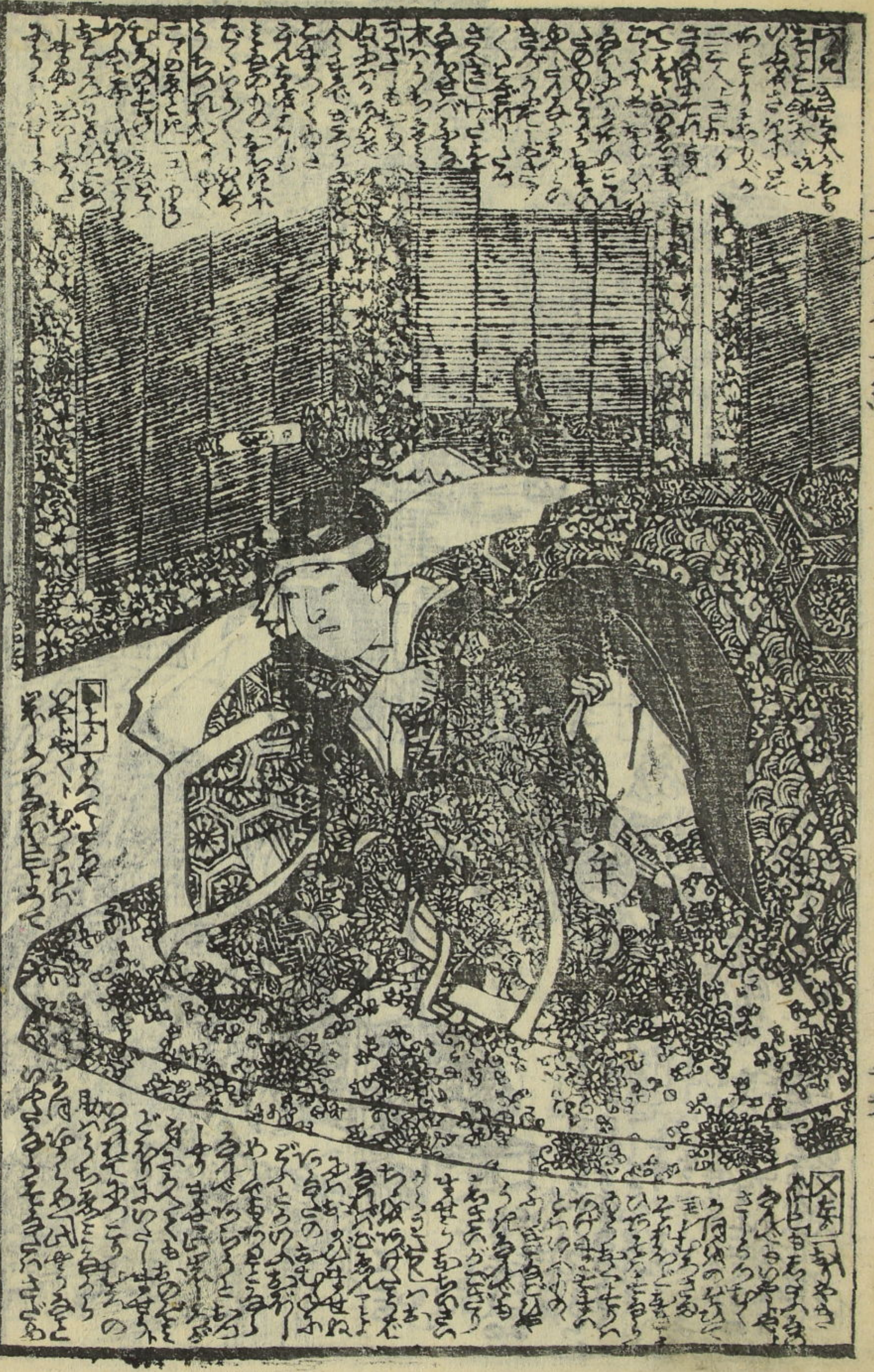
INOSUE  
 女はさきかへりて  
 かくれりて見ゆ  
 りてはさきかへりて  
 かくれりて見ゆ  
 りてはさきかへりて  
 かくれりて見ゆ

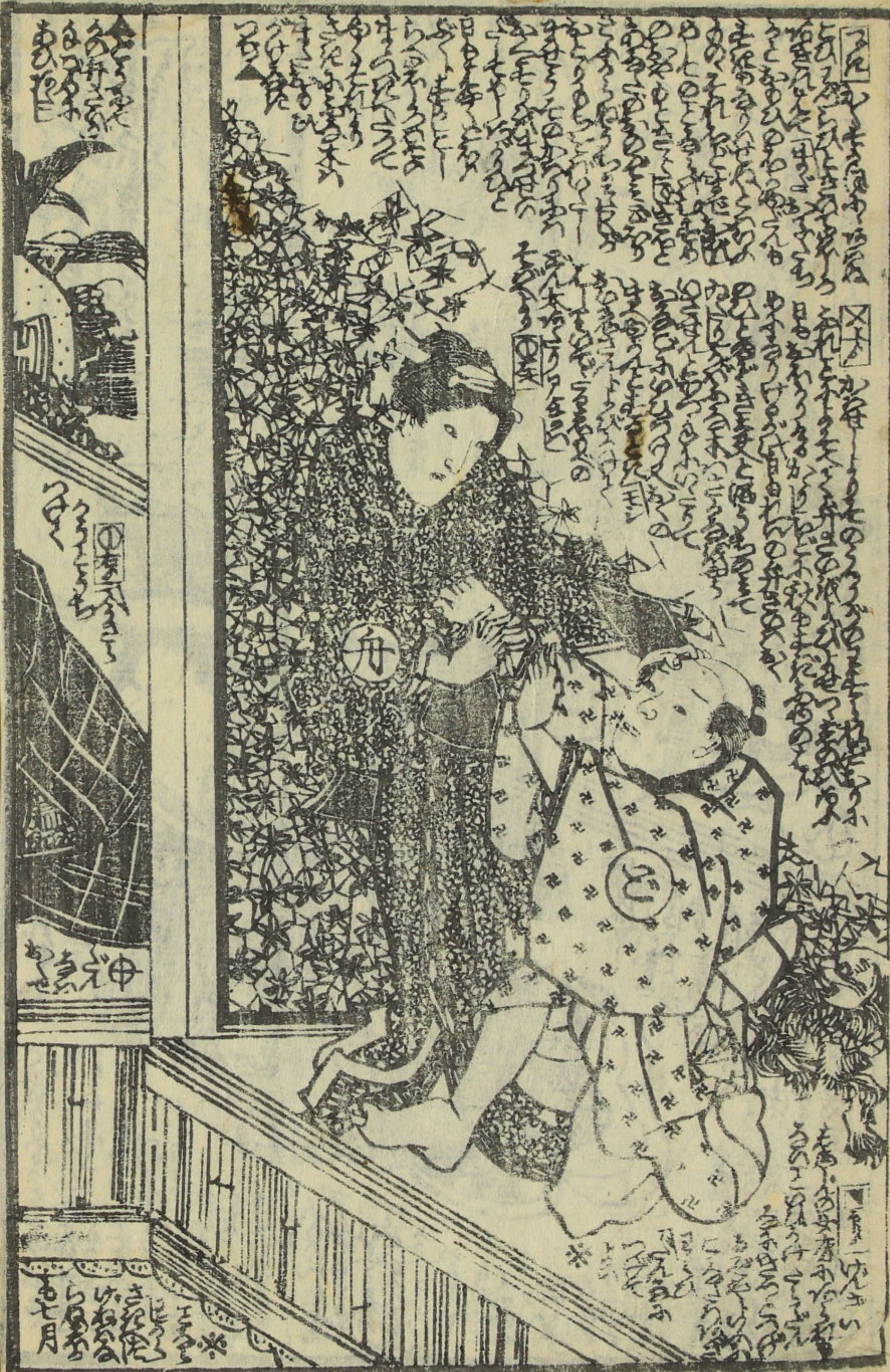
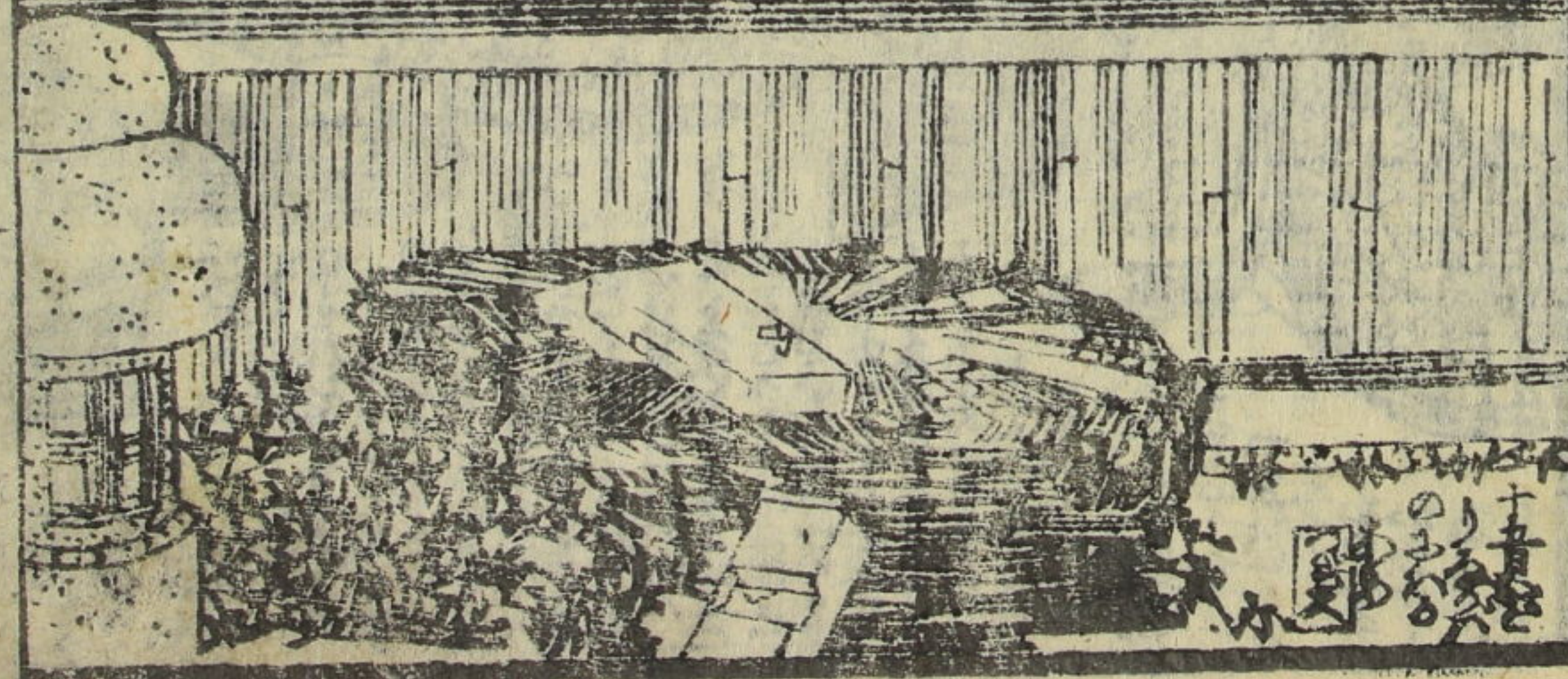
あはれなる女  
 の心持は  
 かくれりて見ゆ  
 りてはさきかへりて  
 かくれりて見ゆ  
 りてはさきかへりて  
 かくれりて見ゆ



あはれなる女  
 の心持は  
 かくれりて見ゆ  
 りてはさきかへりて  
 かくれりて見ゆ  
 りてはさきかへりて  
 かくれりて見ゆ

あはれなる女  
 の心持は  
 かくれりて見ゆ  
 りてはさきかへりて  
 かくれりて見ゆ  
 りてはさきかへりて  
 かくれりて見ゆ





三編

三編

あはれ

あはれ

あはれ

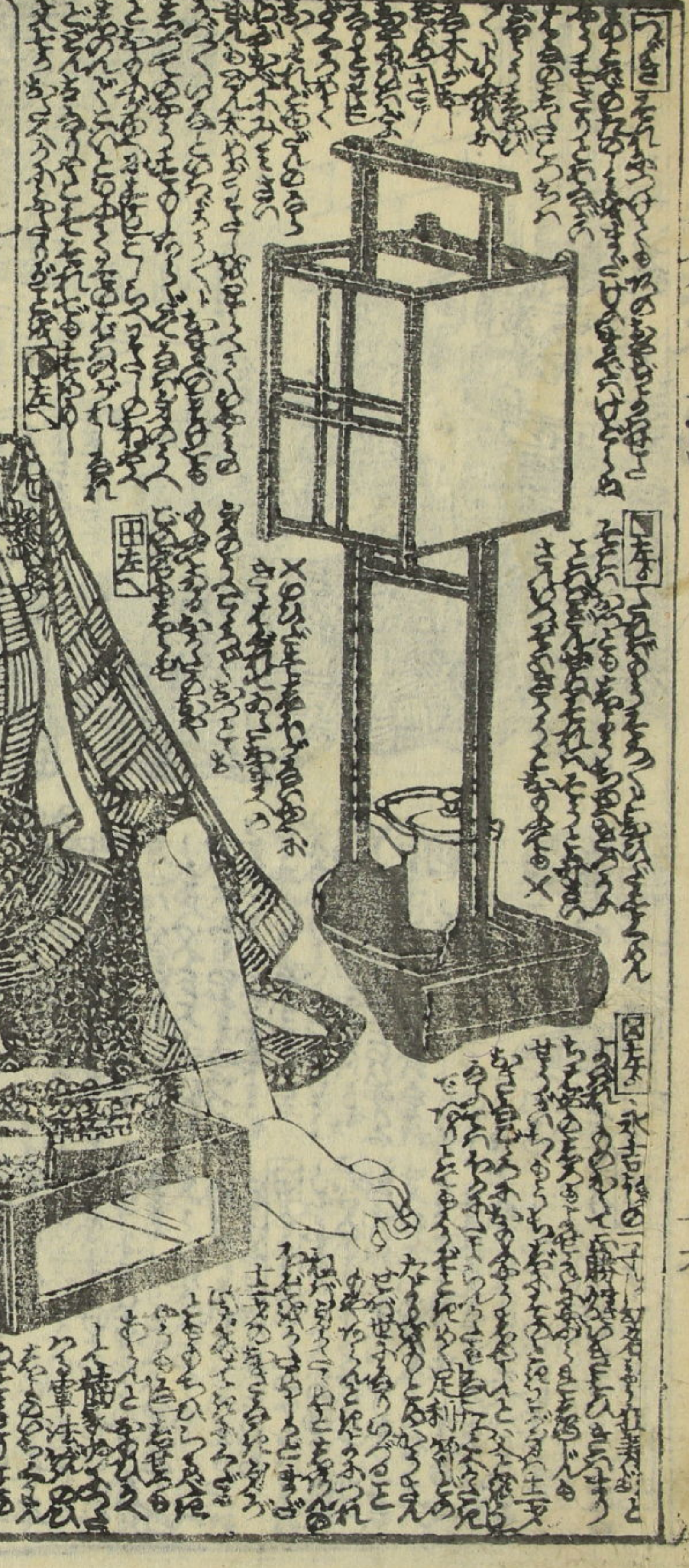
あはれ



Vertical columns of handwritten text on the left side of the top page, likely describing the scene or providing commentary.



Vertical columns of handwritten text on the left side of the bottom page, continuing the narrative or commentary.



舞牛肉丸 一色百孔  
清洲  
漆崎氏製



春水作國輝画

清洲

十返舎 一丸作  
滑稽道中膝栗毛

柳水亭種清作  
不思議塚小説櫻

同  
風俗浅間ヶ嶽

関太郎鈴ヶ譚

五篇大尾

柳水亭種清作  
豊時田秋濑新雁

柳水亭種清作  
猛田姉妹新白石

同

東橋区無座四丁目三番地  
出版人 山中喜太郎

